



くものいと

KU MO NO I TO

No. 47

関西クモ研究会

March 2014

くものいと No. 47

March 2014

目次

兵庫県内の球場周辺及び県立高校敷地内のクモ類（その2）	山本 一幸	1
「子どものためのクモの観察会」で採集したクモ	—奈良市・生駒市・天理市・	
橿原市・生駒郡平群町と三郷町—	関根 幹夫	7
ギンメッキゴミグモはいつ頭を下にする？ —降雨との関係—	伊藤 博	17
オニグモ観察記	伊藤 博	20
大分のクモ相撲	関根 幹夫	26
奈良県のクロガケジグモの分布 —発見から36年経過して—	関根 幹夫	29
山門水源の森のクモ類2	吉田 真・熊田 憲一・西川 喜朗・黒田 あき	34
セアカゴケグモ報告 —和歌山県橋本市—	赤松 史憲	50
関西クモ研究会 採集会の記録（宝が池公園）		52
関西クモ研究会 採集会の記録（2013年度）		54
池田勇介さんを偲ぶ（その2）		
池田勇介くんの死を悼む	吉田 真	56
池田勇介く人を偲んで	西川 喜朗	58
関西クモ研究会 2012年度例会の記録		60
関西クモ研究会 2013年度例会の記録		61
関西クモ研究会 2012年度会計報告		62

兵庫県内の球場周辺及び県立高校敷地内のクモ類（その2）

山本 一 幸

はじめに

長男が兵庫県立浜坂高校の野球部に入部し、県下の球場や高校に試合で行く際には、保護者として送迎や応援に同行することが多くなった。本来ならスタンドで息子の活躍を応援してやるべきであろうが、残念ながら野球というスポーツにあまり興味が無いため時間を持て余していた。そのうちに球場や高校の周辺のクモを調べるようになり、兵庫県下のクモ相について新たな知見を得て、その結果を前号（「くものいと No. 46」山本 2012）に発表した。今回はその続編として、2012年の春から夏に調べた結果について報告する。

方法

場所柄、目立つ行為はつつしみ、散策をしながら目についたクモを手やフィルムケースなどの簡単な容器を用いて採集した。採集したクモはアルコール入りのサンプルビンに入れ、そのまま液浸標本として持ち帰り、内容を分析した。また、コンパクトデジタルカメラを持参し、生態などを撮影した。

2012年4月から6月までに4回、4地点の調査を実施している。

結果

（1）調査場所及び期日

調査した4地点の場所（図1）及び調査日は次の通りであり、地図上及びリストのデータには冒頭の略号で示す。

Ta：高砂市野球場（高砂市米田町島526）周辺

・調査日：2012年4月28日

Ko：こうのとりスタジアム（豊岡市戸牧368-3 豊岡総合スポーツセンター内）周辺

・調査日：2012年5月12日

Ha：県立浜坂高等学校（美方郡新温泉町芦屋853-2）敷地内

・調査日：2012年5月13日

Oo：大屋球場（養父市大屋町市場975）周辺

・調査日：2012年6月23日

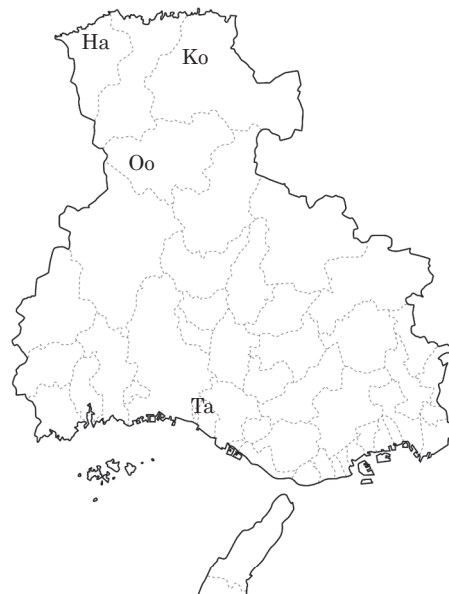


図1. 調査地.

(2) リスト

目撃及び採集したクモのリストは以下の通りである。データは調査場所(略号), 採集(目撃)した個体数, 雌雄の明記は成熟個体のみを示している(未成熟個体は「y」を付記)。科の配列は谷川(2013)に準拠した。

ジグモ科 Atypidae

1. ワスレナグモ *Calommata signata* Karsch 1879

Ko : 1y. Ha : 1♀.

エンマグモ科 Segestriidae

2. ミヤグモ *Ariadna lateralis* Karsch 1881

Oo : 1♀.

ウズグモ科 Uloboridae

3. ヤマウズグモ *Octonoba varians* (Bösenberg & Strand 1906)

Oo : 1♂.

ヒメグモ科 Theridiidae

4. シロカネイソウロウグモ *Argyrodes bonadea* (Karsch 1881)

Oo : 2♀.

5. ハイイロヒメグモ *Paidiscura subpallens* (Bösenberg & Strand 1906)

Oo : 1♀.

6. カグヤヒメグモ *Parasteatoda culicivora* (Bösenberg & Strand 1906)

Ko : 1♀.

7. オオヒメグモ *Parasteatoda tepidariorum* (C. L. Koch 1841)

Ta : 3♂, 1♀. Ha : 1♂. Oo : 1♂, 1♀.

8. ムナボシヒメグモ *Platnickina sterninotata* (Bösenberg & Strand 1906)

Ta : 1♂.

9. ヒメグモ科の一種 Gen. sp.

Oo : 1y.

サラグモ科 Linyphiidae

10. サラグモ科の一種 Gen. sp.

Ta : 1♀.

アシナガグモ科 Tetragnathidae

11. シロカネグモ属の一種 *Leucauge* sp.

Ta : 1y.

コガネグモ科 Araneidae

12. オニグモ *Araneus ventricosus* (L. Koch 1878)

Ta : 1y.

13. オニグモ属の一種 *Araneus* sp.

Ta : 1y.

14. チュウガタコガネグモ *Argiope boesenbergi* Levi 1983

Oo : 1♂, 1♀.

15. ナガコガネグモ *Argiope bruennichi* (Scopoli 1772)

Oo : 2y.

16. コガタコガネグモ *Argiope minuta* Karsch 1879

Ko : 1y. Ha : 1y.

17. ギンメッキゴミグモ *Cyclosa argenteoalba* Bösenberg & Strand 1906

Ta : 1y. Oo : 1♂.

18. カラスゴミグモ *Cyclosa atrata* Bösenberg & Strand 1906
Oo : 1y.
 19. キジロゴミグモ *Cyclosa laticauda* Bösenberg & Strand 1906
Oo : 2♀.
 20. ゴミグモ *Cyclosa octotuberculata* Karsch 1879
Ta : 1y. Ko : 2y. Ha : 1y. Oo : 1♀.
 21. マルゴミグモ *Cyclosa vallata* Keyserling 1886
Oo : 1♀.
 22. サツマノミダマシ *Neoscona scylloides* (Bösenberg & Strand 1906)
Oo : 2y.
 23. ヘリジロオニグモ *Neoscona subpullata* (Bösenberg & Strand 1906)
Ha : 1♀.
 24. ズグロオニグモ *Yaginumia sia* (Strand 1906)
Ko : 1♀. Oo : 3y.
- コモリグモ科 Lycosidae**
25. ヤスダコモリグモ *Arctosa yasudai* (Tanaka 2000)
Oo : 1♀.
 26. イナダハリゲコモリグモ *Pardosa agraria* Tanaka 1985
Oo : 1♂.
 27. オオアシコモリグモ属数種 *Pardosa* sp.
Oo : 2y.
- キシダグモ科 Pisauridae**
28. アズマキシダグモ *Pisaura lama* Bösenberg & Strand 1906
Oo : 1♀ (卵のう)
- ササグモ科 Oxyopidae**
29. ササグモ *Oxyopes sertatus* L. Koch 1878
Oo : 1y.
- シボグモ科 Ctenidae**
30. シボグモ *Anahita fauna* Karsch 1879
Oo : 1♀.
- タナグモ科 Agelenidae**
31. クサグモ *Agelena silvatica* Oliger 1983
Ta : 1y. Oo : 4y.
 32. コクサグモ *Allagelena opulenta* (L. Koch 1878)
Oo : 1y.
 33. シモフリヤチグモ *Iwogumoa insidiosa* (L. Koch 1878)
Ta : 1♀. Oo : 2♀.
 34. シモフリヤチグモ属の一種 *Iwogumoa* sp.
Oo : 1y.
- ウシオグモ科 Desidae**
35. クロガケジグモ *Badumna insignis* (L. Koch 1872)
Ta : 1♀, 3y.
- ハグモ科 Dictynidae**
36. ネコハグモ *Dictyna felis* Bösenberg & Strand 1906
Ta : 1♀. う Oo : 1♀.
 37. ハグモ属の一種 *Dictyna* sp.
Oo : 1y.

ヤマトガケジグモ科 Titanoecidae

38. ヤマトガケジグモ *Nurscia albofasciata* (Strand 1907)
Oo : 1♂, 2♀.

フクログモ科 Clubionidae

39. マダラフクログモ *Clubiona delectrix* O. P.-Cambridge 1885
Ta : 2y.

ワシグモ科 Gnaphosidae

40. ワシグモ科の一種 Gen. sp.
Ta : 1y.

エビグモ科 Philodromidae

41. キハダエビグモ *Philodromus spinatarsis* Simon 1895
Ta : 2y. Ha : 1♀.

カニグモ科 Thomisidae

42. キハダカニグモ *Bassaniana decorata* (Karsch 1879)
Ko : 1♂.
43. コカニグモ *Coriarachne fulvipes* (Karsch 1879)
Ta : 1y.
44. コハナグモ *Diaea subdola* O. P.-Cambridge 1885
Oo : 1♀.
45. チクニエビスグモ *Synema chikunii* Ono 1983
Oo : 1♀.
46. ヤミイロカニグモ *Xysticus croceus* Fox 1937
Oo : 1♂.
47. カニグモ属の一種 *Xysticus* sp.
Oo : 1y.

ハエトリグモ科 Salticidae

48. カタオカハエトリ *Euophrys kataokai* Ikeda 1996
Oo : 1♀.
49. ヤハズハエトリ *Mendoza elongata* (Karsch 1879)
Oo : 1♀.
50. シラヒゲハエトリ *Menemerus fulvus* (L. Koch 1878)
Oo : 1♂.
51. シラホシコゲチャハエトリ *Sitticus penicillatus* (Simon 1875)
Oo : 1♀.

考察

(1) 兵庫県新記録

今回得られたクモ類は 20 科 51 種を記録し、未成熟等で属または科までしか同定できないものを除いた既知種だけでは 42 種となる。

新海ら (2012) による「県別・島別種名リスト」の兵庫県のデータと対照すると、コガネグモ科キジロゴミグモ、コモリグモ科ヤスダコモリグモ、フクログモ科マダラフクログモの 3 種が新記録となる。特にヤスダコモリグモ (図 2, 3) は北海道が記載産地となっており (Tanaka 2000)、本州からは茨城や静岡、三重で記録があるが、西日本では記録がなかった。標本は田中穂積氏に検分をお願いし、確認いただいた。なお、

田中氏（私信）によれば，他に和歌山県，島根県からも採集されている．田中氏には標本の確認ならびに，貴重な情報を提供いただき，この場をお借りして心から感謝申し上げます．



図 2. ヤスダコモリグモ（背面）.

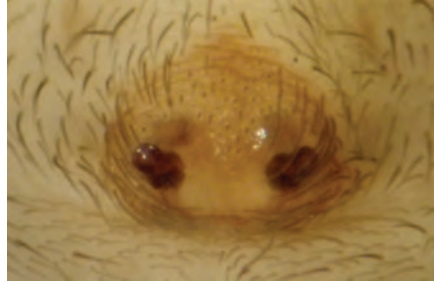


図 3. ヤスダコモリグモの外雌器

（2）絶滅危惧種

兵庫県版レッドデータ（2003）で B ランク（絶滅危惧 II 類）となるジグモ科ワスレナグモは，今回の調査で，兵庫県内で更に 2 ヶ所の新たな産地が確認された．

豊岡市の「このとりスタジアム」では，入り口の駐車場ぞいに植えられたサクラの根元に盛られた土塊に直径 4 mm ほどの巣穴を 3 個発見し，そのうちの一つを掘って本種の若齢個体を採集した．豊岡市内からは日高町（本庄 1994）や竹野町（笹岡 2006）に次いで 3 例目の産地になる．

長男の母校である県立浜坂高校学校からは，中庭の花壇の何も植えられていない裸地になった一角に，直径 5 mm ～ 8 mm の巣穴を数個発見した．土は砂質で比較的軟らかく，大きめの巣穴を深さ 15 cm ほど掘って，メスの成熟個体を採集した（図 4）．当校は筆者の母校でもあり，在学中だった 1977 年頃，生物部員としてクモの研究を始めた頃であったが本種の生息は確認していない．



図 4. 巣穴から掘り出したワスレナグモの♀.

（3）外来種

ウシオグモ科クロガケジグモを高砂市野球場周辺で採集したが，それ以外の調査地では未確認である．

おわりに

当初の予定では，県内各地の多くの球場や県立高校へ出向くつもりであったが，試合の日程と仕事の折り合いがつかず，結果的に 4 地点しか調査できず，しかも内 3 地点は但馬内でやや不本意ではある．しかし，ヤスダコモリグモの新発見やワスレナグ

モが我が母校に生息していたという事実が明らかになり、それなりの成果があったのではないかと思う。

長男の方は、春の但馬地区大会で優勝し、県大会でシード校になったが 1 回戦で負けてしまった。夏の全国高校野球兵庫県大会ではまったく奮わず、初戦を勝ち進むこともできず終った。試合の応援を口実に、県下の球場や高校周辺のクモを調べる機会は当分無くなった。しかし、現在中学校 2 年生の次男がバスケットボール部に入っている。バスケットボールにあまり興味は無いが、遠征試合の時は応援に行ってみようと思っている。

参考文献・資料

- 小野展嗣 編 2009. 日本産クモ類. 東海大学出版会, 神奈川県.
- 笹岡文雄 2006. 但馬地方のワスレナグモ. *Kishidaia*, (89): 63.
- 新海 明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生 2012. CD 日本のクモ Ver.2012, CD-ROM, 著者ら自刊.
- 新海栄一 2006. 日本のクモ. 文一総合出版, 東京都.
- Tanaka, H. 2000. A new species of the genus *Tricca* (Araneae : Lycosidae) from Japan. *Acta arachnol.*, 49(2): 155-157.
- 谷川明男 2013. 日本産クモ類目録, Ver.2013R2. インターネット, <http://www.asahi-net.or.jp/~dp7a-tknw/japan.pdf>
- 兵庫県 2003. 改訂・兵庫の貴重な自然 ―兵庫県版レッドデータ 2003―. 兵庫県県民生活部環境局 自然環境保全課.
- 本庄四朗 1994. 但馬地方の真正クモ類相について. *兵庫生物*, 10(5): 175-178.
- 山本一幸 2012. 兵庫県内の球場周辺及び県立高校敷地内のクモ類 (その 1). *くものいと*, (46): 4-11.



ナミズキンヌカグモ (♀)
大阪府茨木市福井
2013年5月26日 関西クモ研究会採集会
撮影：加村隆英

「子どものためのクモの観察会」で採集したクモ
-奈良市・生駒市・天理市・橿原市・生駒郡平群町と三郷町-

関根 幹夫

SPIDER-WATCHING FOR CHILDREN

The list of spiders for Nara, Ikoma, Tenri, Kashihara, Heguri-cho, and Sango-cho

Mikio Sekine

I acted as a lecturer on the Spider-watching workshop for children held by the Non-profit Organization; Nara-ken Seishonen Bunka Shinko Kyokai, from 2001 up to now. I checked a total of 24 spider families, comprising 111 different species.

筆者は、NPO 法人奈良県青少年文化振興協会の「子どものためのクモの観察会」の講師を 2001 年から現在まで務めてきた。2001 年から 2012 年のクモの観察会で、奈良県の北西部と中部地域で 24 科 111 種のクモ類が確認できたので、ここに報告する。科名の配列は、小野（2009）によった。採集場所は、以下の地域である。図に示した地点番号は、採集場所の番号に対応している（図 1）。目録は、奈良市・生駒市・天理市・橿原市・生駒郡平群町と三郷町に分けて作成し、採集日を年号の下二桁で、オス成体：♂，幼体：y と表す。

(I) 奈良市

- 1) 大淵池公園：奈良市大淵町，標高 126 m 13-V-2001, 13-X-2002, 3-XI-2012
- 2) 平城京跡：奈良市佐紀町，標高 74 m 27-X-2002
- 3) 奈良市黒髪山キャンプフィールド：奈良市奈良阪町，標高 89 m 10-X-2010
- 4) 奈良県新公会堂庭園：奈良市春日野町，標高 116 m 25-V-2003
- 5) 御嶽教大杉大教会本部付近：奈良市春日野町・高畑町，標高 147 m
23-IV-2006, 5-VII-2009

(II) 生駒市

- 6) 生駒山麓公園：生駒市俵口町，標高 331 m 15-VII-2001

(III) 天理市

- 7) 石上神宮外苑公園：天理市杣之内町，標高 111 m 12-V-2002, 29-IV-2007
石上神宮：天理市布留町，標高 110 m 21-XI-2010

(IV) 橿原市

8) 橿原公苑第一体育館付近: 橿原市畝傍町, 標高 71 m 4-VI-2006, 6-VII-2008

(V) 生駒郡平群町と生駒郡三郷町

9) 信貴山展望台付近: 生駒郡平群町信貴山, 標高 292 m; 生駒郡三郷町信貴山東, 標高 273 m 21-XI-2001, 23-IX-2008, 8-XI-2009

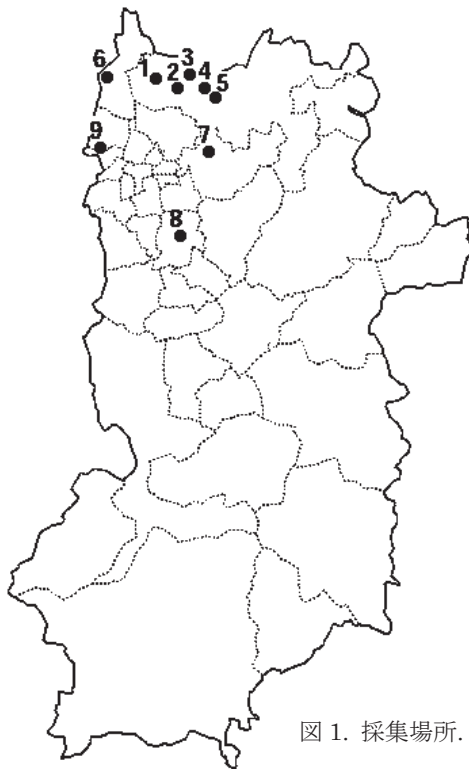


図 1. 採集場所.

目 録

(I) 奈良市 (Nara)

Atypidae ジグモ科

Atypus karschi

ジグモ 大杉大教会 09

Segestriidae エンマグモ科

Ariadna lateralis

ミヤグモ 大杉大教会 06

Pholcidae ユウレイグモ科

Pholcus crypticolens

ユウレイグモ 大湊池 01, 大湊池 02, 新公会堂 03,
大杉大教会 09

Pholcus phalangioides

イエユウレイグモ 大湊池 12

Uloboridae ウズグモ科

Octonoba sybotides

カタハリウズグモ 大湊池 02, 大湊池 12

<i>Octonoba varians</i>	ヤマウズグモ 黒髪山キャンプ 10
Urocteidae ヒラタグモ科	
<i>Uroctea compactilis</i>	ヒラタグモ 黒髪山キャンプ 10, 大杉大教会 06, 大杉大教会 09
Desidae ウシオグモ科	
<i>Badumna insignis</i>	クロガケジグモ 大淵池 02, 平城京跡 02, 黒髪山キャンプ 10
Agelenidae タナグモ科	
<i>Agelena silvatica</i>	クサグモ 黒髪山キャンプ 10, 大杉大教会 06, 大杉大教会 09
<i>Allagelena opulenta</i>	コクサグモ 大淵池 01, 大淵池 02, 大淵池 12, 平城京跡 02, 黒髪山キャンプ 10, 新公会堂 03, 大杉大教会 09
Pisauridae キシダグモ科	
<i>Dolomedes saganus</i>	スジブトハシリグモ 大杉大教会 06
<i>Pisaura lama</i>	アズマキシダグモ 新公会堂 03
Lycosidae コモリグモ科	
<i>Lycosa coelestis</i>	ハラクロコモリグモ 平城京跡 02♂
<i>Pardosa astrigera</i>	ウヅキコモリグモ 大淵池 02, 平城京跡 02, 新公会堂 03, 黒髪山キャンプ 10
<i>Pardosa laura</i>	ハリゲコモリグモ 大淵池 02, 平城京跡 02, 新公会堂 03, 大杉大教会 06
Oxyopidae ササグモ科	
<i>Oxyopes sertatus</i>	ササグモ 黒髪山キャンプ 10, 新公会堂 03, 大杉大教会 09
Mimetidae センショウグモ科	
<i>Ero japonica</i>	センショウグモ 大淵池 02
Linyphiidae サラグモ科	
<i>Nerienne emphana</i>	タイリクサラグモ 大淵池 12
<i>Nerienne fusca</i>	クスミサラグモ 大淵池 01, 大淵池 02, 大淵池 12, 黒髪山キャンプ 10, 大杉大教会 06
<i>Nerienne longipedella</i>	アシナガサラグモ 黒髪山キャンプ 10
<i>Nerienne nigripectoris</i>	ムネグロサラグモ 大杉大教会 09
<i>Turinyphia yunohamensis</i>	ユノハマサラグモ 大淵池 01, 新公会堂 03, 大杉大教会 06
Theridiidae ヒメグモ科	
<i>Argyrodes bonadea</i>	シロカネイソウロウグモ 大淵池 12, 平城京跡 02, 大杉大教会 06
<i>Argyrodes kumadai</i>	チリイソウロウグモ 大淵池 12
<i>Ariamnes cylindrogaster</i>	オナガグモ 黒髪山キャンプ 10, 大杉大教会 09
<i>Chryssso argyrodiformis</i>	オダカグモ 大杉大教会 06
<i>Chryssso foliata</i>	ホシミドリヒメグモ 大淵池 01, 大杉大教会 06
<i>Chryssso scintillans</i>	コガネヒメグモ 大淵池 01
<i>Episinus nubilus</i>	ムラクモヒシガタグモ 大杉大教会 09
<i>Parasteatoda angulithorax</i>	ツリガネヒメグモ 大淵池 01
<i>Parasteatoda culicivora</i>	カグヤヒメグモ 大淵池 02, 大淵池 12, 大杉大教会 06

<i>Parasteatoda japonica</i>	ニホンヒメグモ 大淵池 02
<i>Parasteatoda tepidariorum</i>	オオヒメグモ 大淵池 01, 大淵池 02, 大淵池 12, 平城京跡 02, 黒髪山キャンプ 10, 新公会堂 03, 大杉大教会 06, 大杉大教会 09
<i>Yunohamella subadulta</i>	コケヒメグモ 大淵池 01
<i>Yaginumena castrata</i>	ボカシミジングモ 大淵池 12, 大杉大教会 06
Tetragnathidae アシナガグモ科	
<i>Leucauge celebesiana</i>	オオシロカネグモ 黒髪山キャンプ 10, 新公会堂 03, 大杉大教会 06, 大杉大教会 09♂
<i>Leucauge subblanda</i>	コシロカネグモ 大淵池 01
<i>Tetragnatha maxillosa</i>	ヤサガタアシナガグモ 大淵池 01
<i>Tetragnatha praedonia</i>	アシナガグモ 大淵池 12, 平城京跡 02, 黒髪山キャンプ 10, 大杉大教会 09
<i>Tetragnatha squamata</i>	ウロコアシナガグモ 大淵池 12♂, 大杉大教会 09
Nephilidae ジョロウグモ科	
<i>Nephila clavata</i>	ジョロウグモ 大淵池 02, 大淵池 12, 平城京跡 02 黒髪山キャンプ 10, 大杉大教会 09y
Araneidae コガネグモ科	
<i>Araneus pentagrammicus</i>	アオオニグモ 大淵池 02
<i>Argiope amoena</i>	コガネグモ 平城京跡 02♂, 新公会堂 03♂, 大杉大教会 09
<i>Argiope bruennichi</i>	ナガコガネグモ 平城京跡 02, 黒髪山キャンプ 10
<i>Argiope minuta</i>	コガタコガネグモ 大淵池 01, 大杉大教会 09
<i>Cyclosa argenteoalba</i>	ギンメッキゴミグモ 大淵池 01, 大淵池 02, 黒髪山キャンプ 10, 新公会堂 03, 大杉大教会 06, 大杉大教会 09
<i>Cyclosa monticola</i>	ヤマゴミグモ 大淵池 01, 大杉大教会 06, 大杉大教会 09
<i>Cyclosa octotuberculata</i>	ゴミグモ 大淵池 01, 大淵池 02, 大淵池 12, 平城京跡 02, 黒髪山キャンプ 10, 新公会堂 03, 大杉大教会 06, 大杉大教会 09
<i>Eriophora astridae</i>	サガオニグモ 大杉大教会 06
<i>Neoscona adianta</i>	ドヨウオニグモ 平城京跡 02
<i>Neoscona melloteei</i>	ワキグロサツマノミダマシ 黒髪山キャンプ 10
<i>Neoscona nautica</i>	イエオニグモ 大淵池 02
<i>Neoscona scylla</i>	ヤマシロオニグモ 大淵池 01, 大杉大教会 06
Ctenidae シボグモ科	
<i>Anahita fauna</i>	シボグモ 大淵池 02, 平城京跡 02, 黒髪山キャンプ 10, 新公会堂 03, 大杉大教会 06
Sparassidae アシダカグモ科	
<i>Heteropoda venatoria</i>	アシダカグモ 大杉大教会 09
Philodromidae エビグモ科	
<i>Philodromus spinitarsis</i>	キハダエビグモ 大杉大教会 06
<i>Tibellus japonicus</i>	シャコグモ 大淵池 02, 新公会堂 03, 大杉大教会 06

Gnaphosidae ワシグモ科
Sernokorba pallidipatellis

マエトビケムリグモ 大淵池 01, 大杉大教会 06,
大杉大教会 09

Zelotes asiaticus

クロチャケムリグモ 平城京跡 02, 大杉大教会 09

Thomisidae カニグモ科

Diaea subdola

コハナグモ 大杉大教会 06

Ebrechtella tricuspidata

ハナグモ 平城京跡 02♂, 大杉大教会 09

Heriaeus melloteei

アシナガカニグモ 大淵池 02

Oxytate striatipes

ワカバグモ 大淵池 01

Pistius undulatus

ガザミグモ 大淵池 01, 大杉大教会 06

Xysticus croceus

ヤミイロカニグモ 大淵池 01, 大淵池 02,
平城京跡 02, 大杉大教会 06

Liocranidae ウエムラグモ科

Itatsina praticola

イタチグモ 大淵池 02

Corinnidae ネコグモ科

Otacilia komurai

コムラウラシマグモ 黒髪山キャンプ 10

Phrurolithus pennatus

ヤバネウラシマグモ 大杉大教会 09

Trachelas japonicus

ネコグモ 大淵池 01

Salticidae ハエトリグモ科

Carrhotus xanthogramma

ネコハエトリ 平城京跡 02

Menemerus fulvus

シラヒゲハエトリ 大淵池 01

Myrmarachne japonica

アリグモ 大淵池 01, 大淵池 02

Pseudicius vulpes

イナヅマハエトリ 新公会堂 03

Sibianor pullus

キレワハエトリ 大淵池 02

Siler cupreus

アオオビハエトリ 新公会堂 03♂

Yaginumaella striatipes

ウススジハエトリ 新公会堂 03

(II) 生駒市 (Ikoma)

Agelenidae タナグモ科

Allagelena opulenta

コクサグモ 01

Lycosidae コモリグモ科

Pardosa laura

ハリゲコモリグモ 01

Linyphiidae サラグモ科

Nerienne oidedicata

ヘリジロサラグモ 01

Turinyphia yunohamensis

ユノハマサラグモ 01

Theridiidae ヒメグモ科

Argyrodes cylindratus

トビジロイソウロウグモ 01

Argyrodes kumadai

チリイソウロウグモ 01

Parasteatoda culicivora

カグヤヒメグモ 01

Parasteatoda japonica

ニホンヒメグモ 01

Parasteatoda kompirensis

コンピラヒメグモ 01

Parasteatoda tepidariorum

オオヒメグモ 01

Yunohamella subadulta

コケヒメグモ 01

Tetragnathidae アシナガグモ科

Leucauge celebesiana

オオシロカネグモ 01

Leucauge subblanda

コシロカネグモ 01

Leucauge subgemmea

キララシロカネグモ 01

<i>Tetragnatha praedonia</i>	アシナガグモ 01
Nephilidae ジョロウグモ科	
<i>Nephila clavata</i>	ジョロウグモ 01y
Araneidae コガネグモ科	
<i>Argiope amoena</i>	コガネグモ 01y
<i>Argiope bruennichi</i>	ナガコガネグモ 01y
<i>Neoscona scylla</i>	ヤマシロオニグモ 01
Philodromidae エビグモ科	
<i>Tibellus japonicus</i>	シャコグモ 01
Gnaphosidae ワシグモ科	
<i>Zelotes asiaticus</i>	クロチャケムリグモ 01
Thomisidae カニグモ科	
<i>Ebrechtella tricuspidata</i>	ハナグモ 01
<i>Thomisus labefactus</i>	アズチグモ 01
<i>Xysticus croceus</i>	ヤミイロカニグモ 01
Liocranidae ウエムラグモ科	
<i>Itatsina praticola</i>	イタチグモ 01
Salticidae ハエトリグモ科	
<i>Carrhotus xanthogramma</i>	ネコハエトリ 01
<i>Myrmarachne japonica</i>	アリグモ 01
<i>Siler cupreus</i>	アオオビハエトリ 01
(III) 天理市 (Tenri)	
Pholcidae ユウレイグモ科	
<i>Pholcus crypticolens</i>	ユウレイグモ 02
Uloboridae ウズグモ科	
<i>Miagrammopes orientalis</i>	マネキグモ 02, 07
<i>Octonoba varians</i>	ヤマウズグモ 02
Urocteidae ヒラタグモ科	
<i>Uroctea compactilis</i>	ヒラタグモ 02, 07, 10
Agelenidae タナグモ科	
<i>Agelena silvatica</i>	クサグモ 02y
<i>Allagelena opulenta</i>	コクサグモ 02, 07
Lycosidae コモリグモ科	
<i>Lycosa coelestis</i>	ハラクロコモリグモ 02
Linyphiidae サラグモ科	
<i>Neriere fusca</i>	クスミサラグモ 07
<i>Neriere longipedella</i>	アシナガサラグモ 10
<i>Neriere radiata</i>	シロブチサラグモ 07
<i>Turinyphia yunohamensis</i>	ユノハマサラグモ 07
Theridiidae ヒメグモ科	
<i>Anelosimus crassipes</i>	アシブトヒメグモ 02
<i>Argyrodes bonadea</i>	シロカネイソウロウグモ 07
<i>Parasteatoda culicivora</i>	カグヤヒメグモ 02, 07
<i>Parasteatoda tepidariorum</i>	オオヒメグモ 02, 07
<i>Spheropistha melanosoma</i>	クロマルイソウロウグモ 07
<i>Yunohamella subadulta</i>	コケヒメグモ 02

<i>Yunohamella yunohamensis</i>	ユノハマヒメグモ 07
Tetragnathidae アシナガグモ科	
<i>Leucauge celebesiana</i>	オオシロカネグモ 07
<i>Leucauge subblanda</i>	コシロカネグモ 02, 07
<i>Tetragnatha praedonia</i>	アシナガグモ 07
<i>Tetragnatha squamata</i>	ウロコアシナガグモ 07♂
Nephilidae ジョロウグモ科	
<i>Nephila clavata</i>	ジョロウグモ 10
Araneidae コガネグモ科	
<i>Acusilas coccineus</i>	ハツリグモ 07
<i>Argiope boesenbergi</i>	チュウガタコガネグモ 02, 07
<i>Argiope minuta</i>	コガタコガネグモ 07
<i>Cyclosa argenteoalba</i>	ギンメッキゴミグモ 02, 07, 10
<i>Cyclosa monticola</i>	ヤマゴミグモ 07
<i>Cyclosa octotuberculata</i>	ゴミグモ 02, 07, 10
<i>Cyclosa omonaga</i>	シマゴミグモ 07
<i>Cyclosa sedeculata</i>	ヨツデゴミグモ 10
<i>Eriophora astridae</i>	サガオニグモ 02
<i>Larinioides cornutus</i>	ナカムラオニグモ 10
<i>Neoscona melloteei</i>	ワキグロサツマノミダマシ 07
<i>Neoscona scylla</i>	ヤマシロオニグモ 02
<i>Neoscona scylloides</i>	サツマノミダマシ 02y, 07
Ctenidae シボグモ科	
<i>Anahita fauna</i>	シボグモ 10
Sparassidae アシダカグモ科	
<i>Heteropoda venatoria</i>	アシダカグモ 02
Philodromidae エビグモ科	
<i>Philodromus spinitarsis</i>	キハダエビグモ 07
Gnaphosidae ワシグモ	
<i>Zelotes asiaticus</i>	クロチャケムリグモ 10
Thomisidae カニグモ科	
<i>Bassaniana decorata</i>	キハダカニグモ 02
<i>Diaea subdola</i>	コハナグモ 02
<i>Oxytate striatipes</i>	ワカバグモ 07
<i>Xysticus croceus</i>	ヤミイロカニグモ 07
<i>Xysticus insulicola</i>	アズマカニグモ 02
Liocranidae ウエムラグモ科	
<i>Itatsina praticola</i>	イタチグモ 02, 07
Salticidae ハエトリグモ科	
<i>Carrhotus xanthogramma</i>	ネコハエトリ 07, 10
<i>Hasarius adansoni</i>	アダンソンハエトリ 07, 10
<i>Marpissa pulla</i>	ヨダンハエトリ 02
<i>Myrmarachne japonica</i>	アリグモ 02
<i>Plexippoides doenitzi</i>	デーニッツハエトリ 07
<i>Siler cupreus</i>	アオオビハエトリ 10

(IV) 橿原市 (Kashihara)

Segestriidae エンマグモ科	
<i>Ariadna lateralis</i>	ミヤグモ 06
Uloboridae ウズグモ科	
<i>Octonoba sybotides</i>	カタハリウズグモ 08
Urocteidae ヒラタグモ科	
<i>Uroctea compactilis</i>	ヒラタグモ 06
Desidae ウシオグモ科	
<i>Badumna insignis</i>	クロガケジグモ 06
Agelenidae タナグモ科	
<i>Allagelena opulenta</i>	コクサグモ 06, 08
Lycosidae コモリグモ科	
<i>Pardosa pseudoannulata</i>	キクヅキコモリグモ 08
Oxyopidae ササグモ科	
<i>Oxyopes sertatus</i>	ササグモ 06, 08
Linyphiidae サラグモ科	
<i>Neriere fusca</i>	クスマサラグモ 08
Theridiidae ヒメグモ科	
<i>Anelosimus crassipes</i>	アシプトヒメグモ 06
<i>Argyrodes bonadea</i>	シロカネイソウロウグモ 06, 08
<i>Chryso argyrodiformis</i>	オダカグモ 08
<i>Enoplognatha abrupta</i>	カレハヒメグモ 08
<i>Parasteatoda culicivora</i>	カグヤヒメグモ 06
<i>Parasteatoda japonica</i>	ニホンヒメグモ 08
<i>Parasteatoda tepidariorum</i>	オオヒメグモ 06, 08
<i>Stemmops nipponicus</i>	スネグロオチバヒメグモ 06
<i>Takayus chikunii</i>	バラギヒメグモ 06
<i>Takayus latifolius</i>	ヒロハヒメグモ 08y
Tetragnathidae アシナガグモ科	
<i>Leucauge celebesiana</i>	オオシロカネグモ 06, 08
<i>Leucauge subgemma</i>	キララシロカネグモ 08
<i>Tetragnatha praedonia</i>	アシナガグモ 06, 08
<i>Tetragnatha squamata</i>	ウロコアシナガグモ 06
Nephilidae ジョロウグモ科	
<i>Nephila clavata</i>	ジョロウグモ 08y
Araneidae コガネグモ科	
<i>Argiope amoena</i>	コガネグモ 06, 08
<i>Argiope bruennichi</i>	ナガコガネグモ 08
<i>Argiope minuta</i>	コガタコガネグモ 08y
<i>Cyclosa argenteoalba</i>	ギンメッキゴミグモ 06, 08
<i>Cyclosa monticola</i>	ヤマゴミグモ 08
<i>Cyclosa octotuberculata</i>	ゴミグモ 06
<i>Cyrtophora ikomosanensis</i>	スズミグモ 08
<i>Neoscona scylla</i>	ヤマシロオニグモ 06
<i>Neoscona scylloides</i>	サツマノミダマシ 08
<i>Yaginumia sia</i>	ズグロオニグモ 08

Ctenidae シボグモ科	
<i>Anahita fauna</i>	シボグモ 08
Thomisidae カニグモ科	
<i>Xysticus croceus</i>	ヤミイロカニグモ 06
Corinnidae ネコグモ科	
<i>Phrurolithus pennatus</i>	ヤバネウラシマグモ 08
Salticidae ハエトリグモ科	
<i>Myrmarachne japonica</i>	アリグモ 06
<i>Pseudicius vulpes</i>	イナズマハエトリ 08
<i>Siler cupreus</i>	アオオビハエトリ 06
(V) 生駒郡平群町 (Heguri-cho) と生駒郡三郷町 (Sango-cho)	
和名の前の*印は, 三郷町 (奈良交通貴山バス停付近) で確認された種である.	
Atypidae ジグモ科	
<i>Atypus karschi</i>	ジグモ 01, 08, 09
Pholcidae ユウレイグモ科	
<i>Pholcus crypticolens</i>	ユウレイグモ 08, 09
Uloboridae ウズグモ科	
<i>Octonoba sybotides</i>	カタハリウズグモ 08
Urocteidae ヒラタグモ科	
<i>Uroctea compactilis</i>	ヒラタグモ 08, 09
Desidae ウシオグモ科	
<i>Badumna insignis</i>	*クロガケジグモ 08
Agelenidae タナグモ科	
<i>Agelena silvatica</i>	クサグモ 01, 08
<i>Allagelena opulenta</i>	コクサグモ 08
Lycosidae コモリグモ科	
<i>Pardosa astrigera</i>	ウヅキコモリグモ 01, 09
Oxyopidae ササグモ科	
<i>Oxyopes sertatus</i>	ササグモ 01
Linyphiidae サラグモ科	
<i>Neriere fusca</i>	クスマサラグモ 08
<i>Neriere longipedella</i>	アシナガサラグモ 08
<i>Neriere nigripectoris</i>	ムネグロサラグモ 09
<i>Neriere oidedicata</i>	ヘリジロサラグモ 01
<i>Neriere radiata</i>	シロブチサラグモ 08
<i>Turinyphia yunohamensis</i>	ユノハマサラグモ 01
Theridiidae ヒメグモ科	
<i>Argyrodes kumadai</i>	チリイソウロウグモ 08♂
<i>Ariamnes cylindrogaster</i>	オナガグモ 01, 08
<i>Episinus affinis</i>	ヒシガタグモ 01
<i>Latrodectus hasselti</i>	*セアカゴケグモ 09
<i>Parasteatoda culicivora</i>	カグヤヒメグモ 01
<i>Parasteatoda japonica</i>	ニホンヒメグモ 08
<i>Parasteatoda tepidariorum</i>	オオヒメグモ 01, 08
Tetragnathidae アシナガグモ科	
<i>Leucauge celebesiana</i>	オオシロカネグモ 08

<i>Leucauge subblanda</i>	コシロカネグモ 09
Nephilidae ジョロウグモ科	
<i>Nephila clavata</i>	ジョロウグモ 01, 08, 09
Araneidae コガネグモ科	
<i>Araneus ejusmodi</i>	ヌサオニグモ 01
<i>Argiope minuta</i>	コガタコガネグモ 01, 08
<i>Cyclosa argenteoalba</i>	ギンメッキゴミグモ 01
<i>Cyclosa monticola</i>	ヤマゴミグモ 01
<i>Cyclosa octotuberculata</i>	ゴミグモ 09
<i>Cyclosa omonaga</i>	シマゴミグモ 08
<i>Cyclosa sedeculata</i>	ヨツデゴミグモ 01, 08
<i>Eriophora sachalinensis</i>	カラフトオニグモ 09
<i>Neoscona nautica</i>	*イエオニグモ 08, 09
<i>Neoscona scylla</i>	ヤマシロオニグモ 01, 09
Philodromidae エビグモ科	
<i>Philodromus subaureolus</i>	アサヒエビグモ 01
<i>Tibellus japonicus</i>	シャコグモ 01
Thomisidae カニグモ科	
<i>Diaea subdola</i>	コハナグモ 08
<i>Xysticus croceus</i>	ヤミイロカニグモ 01
Liocranidae ウエムラグモ科	
<i>Itatsina praticola</i>	イタチグモ 01
Corinnidae ネコグモ科	
<i>Phrurolithus nipponicus</i>	ウラシマグモ 09
Salticidae ハエトリグモ科	
<i>Menemerus fulvus</i>	シラヒゲハエトリ 08
<i>Myrmarachne elongata</i>	*ヤガタアリグモ 09
<i>Siler cupreus</i>	アオオビハエトリ 08

引用文献

小野展嗣 (編), 2009. 日本産クモ類. 東海大学出版会 xvi+738 pp.

ギンメッキゴミグモはいつ頭を下にする？ -降雨との関係-

伊藤 博

普段自宅の庭や田畑などで何気なく見ているクモは、みんな下を向いて網に止まっている、と思っていた。あるとき図鑑の中で「ギンメッキゴミグモは網の中心に頭を上にして止まる」という記述に目が留まった（新海栄一 2006, 日本のクモ, 文一総合出版）。山門水源の森でクモの調査を行った際、関西クモ研究会の皆さんにギンメッキゴミグモを教えていただいていたこともあり、自宅でも網に止まっている姿を見ていた。しかし、観察の



初心者は「クモはみんな頭を下にして止まる」と思い込んでいた（正直どっちが頭かの判断すらしていなかった）。そこで改めて観察してみると、10頭ほどのギンメッキゴミグモが見つかり、確かにすべての個体が頭を上にして止まっていた。なぜ他のクモと違う行動をとるのか疑問に思っていたが、深く考えることはなかった。

2012年5月15日、比較的風のおだやかな日にギンメッキゴミグモを撮影していた時、突然やや大粒の雨が降り始め、雨粒がギンメッキゴミグモに当たった瞬間、頭を上にしていたものがぐるりと反転して頭を下にした。その時、「ギンメッキゴミグモは雨粒が嫌いで、雨が降り始めたら下を向くのかかもしれない」と考え、降雨を狙って観察を試みた。2012年6月19日、台風4号が接近する中、根っからの無精者、雨中でじっと観察を継続する勇気もなく、デジタルカメラで連続撮影した画像からその行動を調べてみた。その結果、やや強めの降雨のときは頭を下にすることが観察された。しかし、降雨量との関係など定量的な考察はできていない。



1. 撮影方法

今回のような連続した動作はビデオカメラで連続撮影するのが望ましいが、ビデオカメラを持ち合わせず、しかも雨中の長時間撮影になるため防水対策も必要となるため、防水型でインターバル撮影機能を持ったコンパクトデジカメを使用した。

- (1) カメラ：PENTAX WG-1型を三脚にセットして撮影した。
- (2) 撮影場所：滋賀県大津市の伊藤宅の庭。
- (3) 撮影日時：2012年6月19日6:52~16:32
- (4) カメラ設定条件
 - ・撮影インターバル：30秒間隔
 - ・ピント合わせ：オートフォーカスではピントが合わないため、距離設定によるマニュアルフォーカスとした。

































2. 結果

右の表に降雨の強さとギンメッキゴミグモの網に止まる態勢の変化・推移を示した。

- ・表中,  は頭を上にして止まっていることを示し,  は頭を下にして止まっていることを示す。
- ・それぞれの矢印の長さはその態勢が継続した時間の長さを視覚的に表した。つまり矢印の長短は時間の長短に対応する。
- ・雨の強さは感覚的なもので筆者の独断である。
 ◎ : 降っていない ① : 弱い
 ② : 大粒の雨が混じる ③ : やや強い



A : 撮影開始・頭を上。
6 : 52
 B : 画面外へ移動。
14 : 40
 C・D : 短時間で態勢変化。
15 : 03, 15 : 05
 E : 一瞬, 頭を下。
15 : 34

時刻	雨の強さ	態勢	画像
6:52	③		1: 撮影開始
7:08	②		
7:10	③		
7:19	①		
7:23	③		
7:41	②		
7:47	③		
7:49	②		
7:50	③		
8:04	◎		
9:17	②~③		
9:29			
9:30	◎~②		
11:43	③		
11:46	②		
12:05	③		
12:24	②		
12:33	③		
12:57	①		
13:04	③		
13:06	②		
13:13	③		
13:16	①		
14:40	②~③		2: フレームアウト。理由はわからない。
15:00	◎		
15:05	①		3・4: 雨が小やみ状態にもかかわらず短時間で態勢が変わっている。
15:05	①		
15:10	①		
15:10	①		
15:15	①		一瞬消えた。
15:16	①~②		
15:34	◎~①		5: 一瞬、頭を下にした。雨以外の何かの要因か？
16:32			

- (1) 頭を下向きにするのは大粒の雨が少し密度高く降ってきたときである。弱い雨では頭を下にすることはなく、大粒の雨が混じり始めると頭を下にすることがあり、大粒の雨が密度高くなってくると確実に頭を下にするようである。
- (2) 14:40 から 15:00 の間は、理由がわからないが網の中心から移動し、フレームアウトしていた。比較的雨脚が強く、雨を避けた？ 未確認。
- (3) 15:05 から 15:10 の間は、雨が小やみにもかかわらず短時間で態勢が変わっている。網の補修かエサ取りで移動したのかもしれない。
- (4) 15:15 一瞬画面外に移動した。
- (5) 雨は上がり始めており、頭を上向きにしていたが、一瞬反転した。

3. 補足実験

ギンメッキゴミグモは強い雨が降ると頭を下向きにすることが多いことはわかった。その動機が雨粒の大きさによるものなのか、網に付着する雨の量によるものかヒントを得るため、霧吹きで水滴を吹きかけてみた。最初、水滴によるものかを見るため、スポットで滴下してみたが、網の強度が弱く、すぐに破損してしまった。そのため、霧吹きを使用した。霧吹きによる水は霧状になってクモの体に付着するが、クモは頭を上にしたままであり、ある程度体に付着する水の量が多くなると頭を下向きに変えなかった。



霧吹き：頭を上。
2012.10.14



霧吹き：頭を下。
2012.10.14

4. まとめ

クモ観察初心者の拙い観察であるが、概略次のようことが分かった。

- (1) ギンメッキゴミグモは、やや強い雨が降ると頭を下向きにする。雨の降り始めでも、雨滴が直撃すると一瞬頭を下にすることがあった。この場合、またすぐに元通り頭を上に戻っていた。
- (2) 今回の観察における頭の上下入れ替わりは約 10 時間に 16 回であった。但し、撮影間隔が 30 秒間あるためその間に上下を入れ替えている可能性もあり、もっと高頻度なのかもしれない。また雨以外にもその行動の動機があるのかもしれない。
- (3) 霧吹きの実験結果から、ある程度の量の水が体に付着しないと頭を下に向けない。これは、小雨のときには頭を下に向けないことと共通していると思われる。

しかし、なぜ雨が降ると頭を下にするのだろうか。人と同じく顔に雨が掛かるのは嫌なのだろうか。それよりも、網にかかった餌に飛びつくには下向きに移動する方が重力的に効率がよさそうに思うが、なぜ頭を上にして止まるのだろうか。疑問は残ったままである。なお、ギンメッキゴミグモのこのような行動については、船曳さんのご指導により「池田博明, クモ生理生態辞典 2011 (編集中), インターネット <http://www.ne.jp/asahi/jumpingspider/studycenter/Dic11.html>」のギンメッキゴミグモの項に記述されていることがわかったので付記させていただく。

オニグモ観察記

伊藤 博

1. はじめに

2012年7月, 自宅2階の底にオニグモが網を張っているのを見つけた. しばらくの間は時々写真に撮ったりする程度にしていたが, 次のような動機から連続撮影をして動きを追ってみた.

- ① 網に出てくるのは夜だけであり, 昼はどこかに潜んでいる. その出没行動と夜明け時刻あるいは日没時刻との関連はあるのか.
- ② エサはどんなものをいつ食べるのか. 昼, 網にかかったものは昼に食べるのかあるいは夕方網に出るまで待つのか.
- ③ 凶鑑よれば「網は, 損傷の程度によって2~3日おきに張り替える」とあったが実際にはどうなのか. 網の張替には相当なエネルギーを消費すると考えられるが, どのような行動をとるのか.
- ④ 季節的にはいつまで行動するのか.

このような着眼点を持って8月1日から10月17日まで連続撮影を行った. 以下に, その撮影画像から見たオニグモの生活ぶりについて紹介する.



図1. 網の中央でコガネムシを食べる. 2012.8.7 21:57

2. 観察場所と方法

(1) 観察場所

滋賀県大津市の筆者宅の2Fベランダ. 場所はJR湖西線和邇駅西側の住宅地で, 東側に琵琶湖を望む傾斜地である. 網は自宅の東南の角の底付近に張られたため, 朝日は早く当たり, 西日は早く陰になる. 日中は南からの太陽光が強く当たる.

- ①の円は網が張られた場所である.
- ②は隣家のTVアンテナで, 後述のように一時姿を消した後, 10月4日に移動していたのが確認された場所である. 自宅の壁面から約10m離れており, 果たして同一個体かは不明である.
- ③は連続撮影したカメラの設置状況を示す.
- ④は日中に網から退避していた場所を示す.

(2) 観察方法

コンパクトデジタルカメラのインターバル撮影機能を利用して3分間隔で撮影を継続し, その記録画像から挙動を追った.

(3) 観察期間

2012年8月1日から10月17日(オニグモが姿を消した日)まで.



図2. 観察場所

3. 結果と考察

(1) 網への出沒時刻

表1に、画像から確認できた網への出沒行動を示した。⊗は網から消えた時刻、○は網へ出てきた時刻を示す。

- ① 行動時刻に変動はあるものの、概ね夜明け・日没時刻と対応しているように見える。すなわち、夏から秋に向かうにつれて姿を消す時刻は遅くなり、姿を現す時刻は早くなる傾向を示す。行動は雨の強さも影響しているようで、強い雨の場合には軒下で待機していることもあった。
- ② 季節的には、10月に入ると網への出沒が不規則になり、日中に網へ出るなど行動が安定しなくなった。最終的には10月17日を最後に姿が確認できなくなった。

表1. 網への出沒時刻

	4	5	6	16	17	18	19	20	
8月1日	4:59 ⊗							○	19:23	
8月4日	4:56 ⊗							○	19:23	
8月6日	4:45 ⊗							○	19:21	
8月8日	4:41 ⊗							○	19:26	
8月9日	4:44 ⊗						軒下で採食			
8月10日	4:59 ⊗							○	19:20	
8月11日								○	19:04	
8月12日	4:49 ⊗									
8月16日	5:07 ⊗						○	18:29 餌に取りつく		
8月17日	5:02 ⊗									
8月18日	5:03 ⊗					強い雨のため20:40まで軒下で待機			○	
8月19日	4:54 ⊗							○	19:12	
8月22日	5:01 ⊗							○	18:55	
8月23日								○	18:58	
8月25日								○	18:51	
8月26日						17:00捕食行動、翌日3:40ころまで。				
8月27日								○	18:51	
8月28日	5:06 ⊗							○	18:46	
8月29日	4:58 ⊗							○	18:46	
8月30日	5:02 ⊗							○	18:47	
8月31日								○	19:07	
9月1日	5:04 ⊗									
9月3日	5:18 ⊗							○	18:35	
9月4日	5:23 ⊗							○	18:34	
9月5日	5:07 ⊗						○		17:57	
9月6日	5:36 ⊗	⊗					○		18:30	
9月7日	5:09 ⊗						○		18:30	
	これ以降、所在不明。10/4隣家のTVアンテナで再見。同一個体かは不明。									
10月4日	6:55		⊗			○			17:04	
10月5日	5:30	⊗				○			16:44	
10月6日	6:10		⊗							
10月8日				←.....→					この間、網に居る	
10月11日				←.....→					この間、網に居る	
10月12日										
10月13日		10/12~10/16 網への出沒を不規則に繰り返し、行動パターン								
10月14日		が安定しなくなった。								
10月15日										
10月16日										
10月17日									姿消す。	

(2) 網の張替・補修行動

表 2 に網の張替・補修行動の様子を示した。◀⋯⋯▶ は網の取り壊しから張替・補修行動開始までの待機の時間、◀▶ は張替・補修を行っている時間を表す。

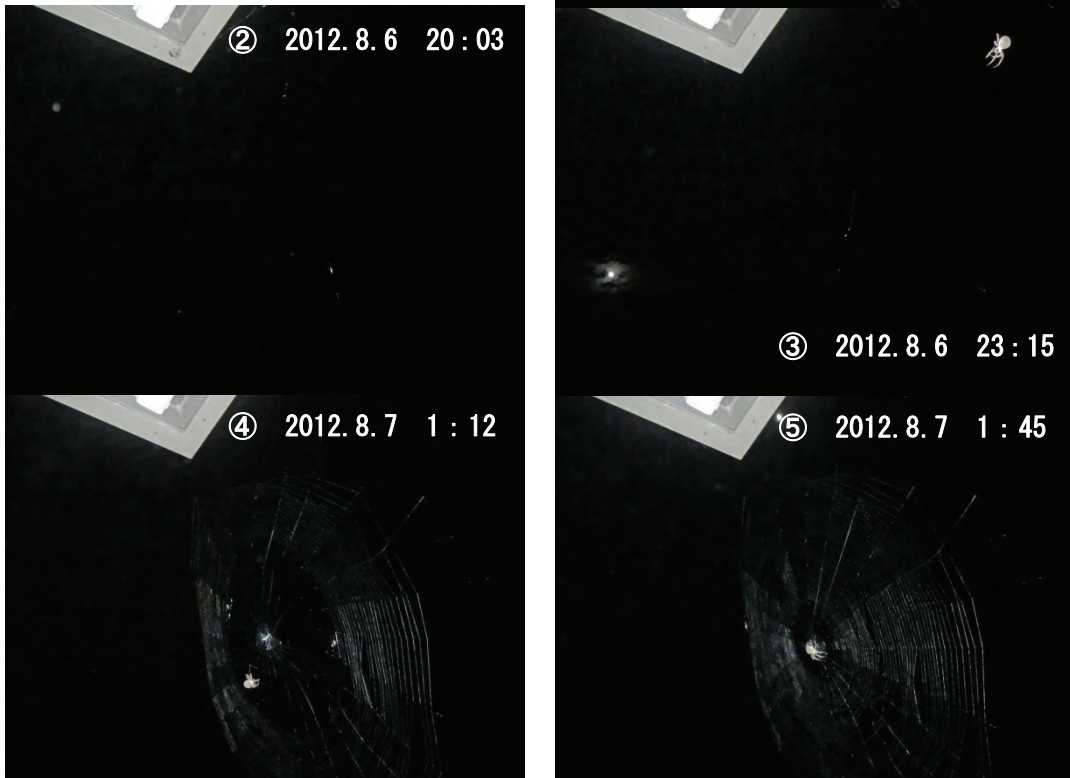
- ① 網の張替・補修は、概ね 23 時頃から翌日 3 時頃にかけて毎晩のように行っている。図鑑などでは「朝網をたたむ」という記述があるが、この個体の場合にはそのような行動は確認できず、深夜張替の前に壊している様子が明らかであった。
- ② 張り替え行動の前に古い網をいったん取り壊し、しばらく待機した後張替行動をとっているように見える。待機時間は長短あり、数分から 2 時間以上に及ぶことがあるなど様々であった。この待機は何を意味するのだろうか。壊した網は、落としているのか、食べているのか確認できなかったが、もし食べているのであれば、新たな網の材料が体内で作られるよう消化を待っているのだろうか。
- ③ 網の張替・補修に要する時間は、最短で約 1 時間 (8 月 11 日) 最長で約 4 時間 (8 月 9 日) を要している。しかし 8 月 9 日は、途中でエサを食べている形跡があり、実際にはこれほどの時間は要していないと思われる。また 8 月 11 日と 9 月 3 日は、画像から明らかに狭い範囲の部分補修であることが確認でき、短時間で終了したものと考えられる。
- ④ 9 月 3 日は、明け方 (3 時半頃から 4 時半頃) に張替・補修行動をとっているがエサを 2 時ころまで食べていたために遅くなったものと推測される。

表 2. 網の張替・補修行動

	0	1	2	3	4	19	20	21	22	23
8月1日											
8月2日											◀▶
8月3日	◀▶	◀▶									◀⋯⋯▶
8月4日	◀▶	◀▶	◀▶								
8月5日	◀⋯⋯▶	◀▶	◀▶								
8月6日								◀⋯⋯▶	◀⋯⋯▶	◀▶	
8月7日	◀▶										
8月8日	8/8 0:26まで食事、その後網張動作なし。										◀⋯⋯▶
8月9日	◀▶	◀▶	◀▶							夜間姿見せず	
8月10日											
8月11日	◀▶	◀▶	◀▶							◀▶	
8月12日										◀▶	
どこかへ移動し、8/15まで姿の確認ができず。											
8月16日	8/16 2mほど横で新たな網が見つかる。										
8月17日	◀⋯⋯▶	◀▶									
8月18日	◀▶										
8月19日	◀▶										◀⋯⋯▶
8月20日	◀▶										◀▶
8月21日	撮影できず、データなし。										
8月22日	◀▶	◀▶									
8月23日									◀⋯⋯▶		◀▶
8月24日	◀▶	◀▶									
8月25日									◀⋯⋯▶	◀▶	
8月26日	◀▶	◀▶									
8月27日	◀▶	◀▶								◀⋯⋯▶	◀▶
8月28日	◀▶	◀▶									
8月29日	◀▶	◀▶								◀⋯⋯▶	◀▶
8月30日	◀▶	◀▶									
8月31日	網の張替・補修行動確認されず。										
9月1日	◀▶	◀▶									
6月2日	姿見せず。										
9月3日									◀⋯⋯▶	◀▶	◀▶
9月4日	◀▶	◀▶									
9月5日	◀⋯⋯▶	◀▶							◀⋯⋯▶	◀▶	
9月6日	◀⋯⋯▶	◀▶									
9月7日											
9/8~10/3の間、姿見えず。10/4に隣家のTVアンテナに姿を現す。											
10月4日	17時14分頃網張りを始めたが、撮影が途中で中断										
10月5日	以後、網張り、捕食行動確認できず。10/17を最後に姿を観なくなった										

図 3. 網の張替・補修作業の例
2012.8.6-8.7

- ① 網を取り壊す直前.
- ② 取り壊した後の「待機」.
- ③ 張替・補修作業開始.
- ④ 張替・補修作業進行中.
- ⑤ 張替・補修作業完了し、網の中央に止まる. ③~⑤までの所要時間は2時間30分.



(3) 食事行動

図 3 にオニグモの食事の姿の例を示した. また画像に記録された獲物の一覧を表 3 に, オニグモがエサを食べるパターンを表 4 に示した. ●—● は実際に食べている時間を示し, — — — は撮影できていないが採食が継続していることを示す. また, ◎…は網にかかった虫を放置したことを示す.

- ① エサの種類としてはコガネムシやセミの仲間, アブ, カメムシ (あるいはサシガメ) などが確認された. また, 筆者が与えたゴマダラカミキリも食べていた.
- ② セミのような「大物」は数時間にわたって食べ, 最長 13 時間に及ぶこともあった. 特に 8 月 5 日の夜から 6 日にかけて 2 匹のコガネムシを短い中断を挟みながら延べ約 15 時間にわたって食べていた. この日は当然ながら網の張替・補修行動

はなかった。

- ③ 糸を巻かずに食べることも多い。同じ庭に生息しているコガネグモやジョロウグモなどに比べて、糸の巻き方が少ないように感じる。
- ④ 食べ終わったものは網に残さず、すぐに落としているようで、食べかすはほとんど残っていない。
- ⑤ 食事時間は昼夜無関係のようである。但し、日中や雨天の場合にはエサを伴って網から軒下へ移動して食べている様子も確認できた。
- ⑥ 網の張替・補修行動の最中にエサがかかることもあったが、その場合には網の張替・補修行動を中断し、食べていた。その結果、網の張替・補修作業が長引くことも確認された。

図 4. オニグモの食事の例



① セミ. 2012.8.27



② カメムシまたは
サシガメ?
2012.8.5



③ 筆者が与えた
ゴマダラカミキリ
2012.8.12

表 3. 写っていたエサの一覧

	網にかかった虫の種類	食事の様子
8月2日	セミ	3時間以上?
8月5日	コガネムシ2匹	両日にわたり、断続的に約15時間かけて食べる。
8月6日	コガネムシ	
8月7日	コガネムシ	3時間以上?
8月9日	不明	網の張替・補修中に捕獲。間欠的に食べる。
8月9日	セミ	夕方捕獲。4時間以上?
8月11日	セミ	約6時間放置後、約7時間食べ続ける。
8月16日	カメムシまたはサシガメ?	約3時間放置後、約2時間食べ続ける。
8月17日	コガネムシ?他に小さな虫2	3匹かかるが食べたのは3匹目のみ?
8月18日	コガネムシ?	断続的に約6時間かけて食べる。
8月21日	不明	6時間以上?
8月22日	不明2匹	2匹目を短時間食べる。
8月23日	?小さい	数分で落とす。
8月26日	セミ	最初網で食べていた(約2時間)が、その後軒下へ
8月27日	セミ(前日と同じ個体)	運んで食べる。延べ約10時間食べ続ける。
8月28日	アブ	網にかかったまま約11時間放置後2時間で食べる。
9月6日	セミ	約11時間食べ続ける。

表 4. 食事行動

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
8月1日																								
8月2日						●	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
8月3日																								
8月4日																								
8月5日																								
8月6日																								
8月7日																								
8月8日																								
8月9日																								
8月10日																								
8月11日																								
8月12日																								
8月16日																								
8月17日																								
8月18日																								
8月19日																								
8月20日																								
8月21日																								
8月22日																								
8月23日																								
8月24日																								
8月25日																								
8月26日																								
8月27日																								
8月28日																								
8月29日																								
8月30日																								
9月1日																								
9月2日																								
9月3日																								
9月4日																								
9月5日																								
9月6日																								
9月7日																								

以降10/4まで姿を見せず、その後捕食動作見られず。10/17姿消す。

(4) 日中の退避場所

日中は、図 2 の④で示した部分の庇の構造物の中で潜んでいた。東南の角で日当たりもよく、鉄板製ということもあってかなり熱いと思われるが、オニグモはどれくらいの温度まで耐えられるのだろうか、気になるところである。

4. おわりに

オニグモが偶然自宅に住み着いてくれたことに発した 2 か月半にわたる同一個体の観察記であるが、クモ観察初心者としては驚きの連続であった。① 網の張替には多大なエネルギーを消耗すると思われるが、ほぼ毎日長時間かけて張り替えていること、② エサを食べる頻度は意外に低く、しかも長時間にわたることがあること等々・・・もし同じような機会に恵まれることがあればもう少し視点を変えて確認の観察を行ってみたいと思う。

このような観察機会を与えてくれたオニグモさんに感謝しながら報告を終わりたい。

なお、原稿段階で吉田先生、加村先生、谷川先生、新海先生にまとめ方等についてご指導いただきました。ここに厚くお礼申し上げます。

大分のクモ相撲

関根 幹夫

The spider-fighting in Oita City

Mikio Sekine

This is a report on the 1st spider-fighting competition in Oita City, Kyushu Island. This event was held at Jokeiji temple, in Kisagami on July 28, 2013. Until now, at Jokeiji temple, a local spider-fighting event was held 12 times. The slender stick used to be held by the referee's hand. This time the usage of the stick varied until it was fixed onto the vertical post. It is modeled after that used in Kajiki, the most famous spider-fighting in Japan.

はじめに

コガネグモを横棒上で闘わせるクモ相撲は、日本各地で組織化・行事化され保存継承されている。筆者は、大分市でクモ相撲が行われていることを確認していたが（関根 2010）、その詳細は不明であった。今回、大分市木佐上の浄慶寺で開催された第1回大分コガネグモ相撲選手権大会を訪問しその取材をしたので、ここに報告をする。

調査結果と考察

大分市木佐上地区では、小学生のサマーキャンプ行事の一つとして、クモ相撲が今までに12回行われてきた。今年は、農業生産振興及びふれあい行事を中心に地域興しに取り組んできた「木佐上コミュニティー」の設立25周年を記念し、通算13回目のクモ相撲行事を「第1回大分コガネグモ相撲選手権大会」と銘打ち、木佐上地域外に参加者を広げて開催された。

2013年7月28日、10時からの開会式に続き、試合は10時30分から開始され、途中30分の休憩を挟んで、13時30分まで行われた。72名の出場者を二箇所の「土俵」に分けて、トーナメント方式で試合が行われた（図1）。

この地のクモ相撲の特徴を列挙すると：

- 1) 出場者と観客は、小学生とその親たち、またその祖父母、さらには子育てを終えた地域コミュニティーの人々であった。幅広い年齢層であった。
- 2) 出場者は、クモを自分で採り育てていた。従って、クモに愛着がわき試合に力がこもり、闘うクモへの声援に熱が入っていた。



図1. 第1回大分コガネグモ相撲選手権大会. 観衆で埋め尽くされた会場の浄慶寺境内.



図 3. 第 1 回大分コガネグモ相撲選手権大会. 2013 年 7 月 28 日.
横棒土俵はたて棒支柱に固定されている.

3) 行事の推進者は、浄慶寺の豊岡 光闡（とよおか こうせん）住職だが、「木佐上コミュニティ」という組織に依拠して行われていた。

以上のことから、この地のクモ相撲は今後も継続していくであろうと期待できる。

また、この地のクモ相撲は、昨年の 2012 年までは、横棒土俵を行司が手で持つ方式でクモを闘わせていたが（図 2）、今回、横棒土俵はたて棒支柱に固定されていた。たて棒に固定された横棒は、鹿児島県始良市加治木町の横棒の「ひもし」より短く、加治木町ではセイタカアワダチソウの木化した茎が「ひもし」として使用されるが、この地のクモ相撲では樹木の枝が使用されていた（図 3）。また、クモの闘いを促すために、加治木町のようにクモに砂をかけることは行われていなかった。クモが闘わない場合には、横棒土俵を棒で叩いてクモの戦意を促していた。このように細部については、加治木町とまったく同じという訳ではないが、今回のクモ相撲大会は、加治木町の方式が取り入れられたものと考えられる。加治木町の「くも合戦」は、組織化されたからの歴史が長く、闘いの方とルール、勝敗の審判基準が確立されている（関根 2011）。浄慶寺の豊岡住職は、2013 年 6 月に加治木町の「くも合戦」を訪問し、その試合方式を加治木町から学んで来られた。また、協賛団体からの副賞提供や試合後のお楽しみ抽選会等も加治木町に学び、今回の大会にそのノウハウを取り入れたと思われる。

引用文献

関根幹夫 2010. フィリピンのクモ相撲の現況. Acta Arachnol., 59: 104-108.

関根幹夫 2011. コガネグモ相撲における横棒土俵の扱い方に関する一考察. くものいと, 45:1-10.

奈良県のクロガケジグモの分布 -発見から 36 年経過して-

関根幹夫

**The distribution of *Badumna insignis* (Araneae: Desidae) in Nara Prefecture:
Thirty-six years on**

Mikio Sekine

The distribution of an exotic spider *Badumna insignis*, or Black House Spider in Nara Prefecture, where the species was first found in 1977, was surveyed in 2013. The biological dispersal of this species is shown on this paper. The species was found in 12 cities, 15 towns, and 2 villages in Nara Prefecture. However, the species was not found in Yamazoe Village, Nosegawa Village, Totsukawa Village, Soni Village, Mitsue Village, Kurotaki Village, Tenkawa Village, Shimokitayama Village, Kamikitayama Village, and Higashiyoshino Village. Although *B. insignis* was not found in and around southern mountain areas, this species settled widely in Nara Prefecture (Fig. 1). It suggests that the invasion of the spiders was from Osaka, where the species was first found in 1963. In other words, in Nara Prefecture they perhaps dispersed from the northwestern areas southward. On the other hand, the spiders may have simply been carried by vehicles as was pointed out.

はじめに

クロガケジグモ *Badumna insignis* (L. Koch 1872) (クモ目ウシオグモ科) は、オーストラリアからの帰化種で、1963年に大阪府で最初に確認され(八木沼 1974)、その分布は近畿地方から日本各地に拡大している(新海ら 2012)。Charles R. Darwin (1859) は、種の分散という問題を提起したが、これはとても興味深いテーマである。本種は、どのように分散しているのだろうか？奈良県で本種は、1977年に斑鳩町稲葉西1丁目目で筆者により初めて確認され、御所市、平群町、三郷町、王寺町で生息していることを確認していたが、本種が現時点で奈良県のどの範囲まで分布を拡げているかにつ

いては未調査であった。そこで、2013年の5月から9月にかけて、奈良県下でのクロガケジグモの生息調査を行った。その結果、現時点での生息範囲の概略を把握できたので、ここに報告する。

方 法

奈良県内の国道・地方道沿いを中心に奈良県下の全市町村を、橋の欄干やガードレール、道標や金網フェンス、民家の軒先や塀など本種が好んで造網する建造物を目視で確認し、本種の網の有無を調べた。本種の「ボロ網」は、他科のクモの網とは容易に区別できる。

結 果

奈良県下の12市15町2村で本種の生息が確認された。今回の奈良県における分布調査結果を図1に示す。本種は、奈良県北西部から五條・北部吉野及び奈良県北東部まで広く分布していることが確認された。なお、奈良県北東部の山添村、奈良県南西部の野迫川村と十津川村、および奈良県南東部の曾爾村、御杖村、黒滝村、天川村、下北山村、上北山村と東吉野村では本種の生息を確認できなかった。

データは市町村名：地点番号、地点名、標高、調査日（YY.MM.DD）の順に記した。

I) 奈良県北西部

- 奈良市：(1) 大淵町・大淵池公園, 117 m, 2013.8.9 / (2) 高畑町, 113 m, 2013.9.6
大和高田市：(3) 市場, 69 m, 2013.6.29 / (4) 有井, 60 m, 2013.8.6 / (5) 池田, 61 m, 2013.8.6
大和郡山市：(6) 稗田・賣太（めた）神社, 50 m, 2013.6.27 / (7) 高田町・JR 郡山駅, 51 m, 2013.7.13
天理市：(8) 森本町・森神社, 75 m, 2013.6.27 / (9) 柳本町, 83 m, 2013.7.2
橿原市：(10) 畝傍町・橿原公苑第1体育館, 70 m, 2013.8.5 / (11) 東坊城町, 65 m, 2013.8.5 / (12) 四条町, 65 m, 2013.8.5
桜井市：(13) 穴師, 112 m, 2013.7.2 / (14) 粟原, 192 m, 2013.8.11
御所市：(15) 宮前町・鴨都波（かもつば）神社, 96 m, 2013.6.29 / (16) 戸毛・春日神社, 121 m, 2013.6.29 / (17) 柳原・笠宮春日神社, 78 m, 2013.7.1 / (18) 室, 109 m, 2013.9.5
生駒市：(19) 小平尾町, 108 m, 2013.8.8 / (20) 萩原町, 138 m, 2013.8.8
香芝市：(21) 北今市6・戎（えびす）神社, 60 m, 2013.5.27 / (22) 高, 50 m, 2013.9.5
葛城市：(23) 大屋, 105 m, 2013.7.6
平群町：(24) 吉新, 260 m, 2013.6.3
三郷町：(25) 勢野西, 151 m, 2013.8.5 / (26) 勢野東, 348 m, 2013.8.5
斑鳩町：(27) 三井, 71 m, 2013.6.10 / (28) 法隆寺西, 157 m, 2013.6.30
安堵町：(29) 東安堵・善照寺, 46 m, 2013.7.13

川西町：(30) 唐院・比売久波 (ひめくわ) 神社, 49 m, 2013.5.27 / (31) 保田・六県 (むつがた) 神社, 45 m, 2013.5.27

三宅町：(32) 伴堂, 45 m, 2013.8.8

田原本町：(33) 富本・富都 (ふつ) 神社, 46 m, 2013.7.8 / (34) 多・小社 (おごそ) 神社, 54 m, 2013.7.8

高取町：(35) 観覚寺, 109 m, 2013.8.5

明日香村：(36) 豊浦, 106 m, 2013.8.5 / (37) 橘, 121 m, 2013.8.5

上牧町：(38) 上牧・貴船神社, 70 m, 2013.5.27

王寺町：(39) 王寺町, 142 m, 2013.8.3 / (40) 王寺町, 238 m, 2013.8.3 / (41) 畠田, 848 m, 2013.9.5

広陵町：(42) 弁財天・櫛玉比女命 (くしたまのひめのみこと) 神社, 46 m, 2013.5.25 / (43) 中・小北稻荷 (こきたいなり) 神社, 47 m, 2013.5.25 / (44) 大塚, 57 m, 2013.8.6

河合町：(45) 薬井・春日若宮神社, 50 m, 2013.5.19

II) 五條・北部吉野

五條市：(46) 住川町, 197 m, 2013.6.29 / (47) 本町 1, 101 m, 2013.7.21

吉野町：(48) 榎井, 185 m, 2013.8.22 / (49) 丹治, 176 m, 2013.9.5 / (50) 河原屋, 167 m, 2023.9.5

大淀町：(51) 今木・甲 (かぶと) 神社, 140 m, 2013.9.5 / (52) 桧垣本, 147 m, 2013.9.5 / (53) 北野, 235 m, 2013.9.5 / (54) 新野・近鉄六田駅前, 154 m, 2013.9.5

下市町：(55) 下市, 144 m, 2013.7.6 / (56) 栢原, 215 m, 2013.9.5

III) 奈良県北東部

宇陀市：(57) 大宇陀内原, 336 m, 2013.8.11

山添村：生息を確認できなかった, 2013.6.2

IV) 奈良県南西部

野迫川村：生息を確認できなかった, 2013.8.23

十津川村：生息を確認できなかった, 2013.8.21

V) 奈良県南東部

曾爾村：生息を確認できなかった, 2013.8.2

御杖村：生息を確認できなかった, 2013.8.2

黒滝村：生息を確認できなかった, 2013.7.6 / 2013.9.7

天川村：生息を確認できなかった, 2013.7.6 / 2013.9.7

下北山村：生息を確認できなかった, 2013.8.21

上北山村：生息を確認できなかった, 2013.8.21 / 2013.8.22

川上村：(58) 東川, 226 m, 2013.8.22

東吉野村：生息を確認できなかった, 2013.8.11

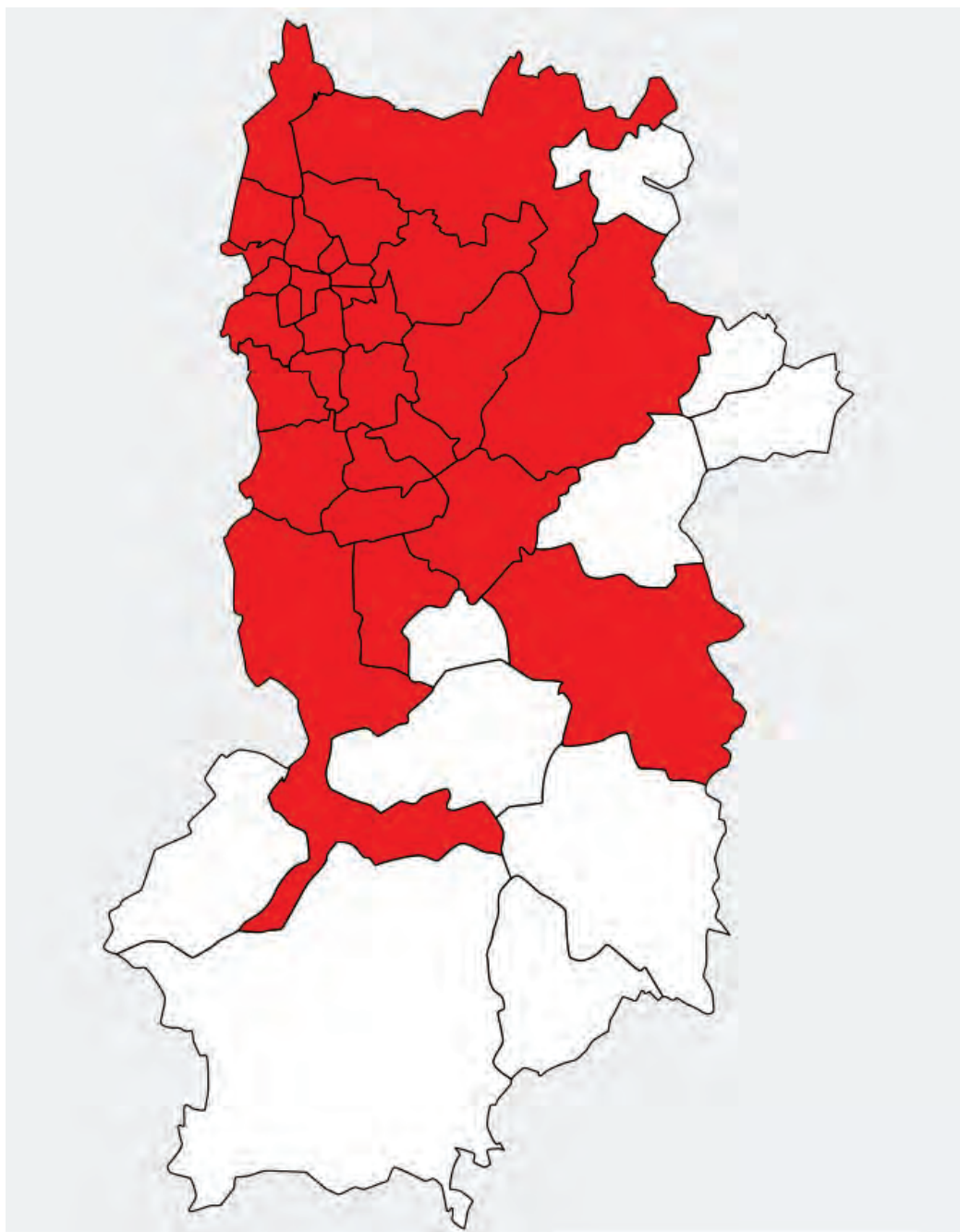


図 1. 奈良県におけるクロガケジグモの調査結果 (2013 年).
■=いる, □=いない.

Fig. 1. Distribution of *Badumna insignis* in Nara Prefecture in 2013.
■=Inhabited areas for the species, □=Absent.

考 察

今回の生息調査で、本種は奈良県に広く生息していることが確認されたが、奈良県北東部の山添村、奈良県南西部の野迫川村と十津川村、および奈良県南東部の曾爾村、御杖村、黒滝村、天川村、下北山村、上北山村と東吉野村ではその生息を確認できなかった。よって、奈良県での発見から36年が経過しているものの、本種はこれらの山間部には侵入していないと思われる。したがって、本種の奈良県への主な侵入源は、本種が早くから定着している大阪府からによるものと考えられる。すなわちクロガケジグモは概ね、奈良県北西部から南へとその分布を拡げてきたと思われる。あるいは、鳥取県における本種の分散について既に指摘されている（亀田ら 2010）が、本種が自力でその分布を拡大してきたというよりは、自動車の貨物や鉄道などへの便乗によって分散してきた可能性も否定できないであろう。

引用文献

- Darwin, C. 1859. *On the Origin of Species* (the first edition). 八杉龍一 (訳) 1990. 種の起原 [改訂版] 上・下. 岩波文庫 (東京), 446pp. + 408pp.
- 亀田篤史・有馬千弘・谷本純子・花房佑樹・鶴崎展巨 2010. 鳥取県におけるクロガケジグモの分布範囲. 山陰自然史研究, 5: 55-60.
- 新海 明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生 2012. CD 日本のクモ Ver.2012, CD-ROM, 著者ら自刊.
- 八木沼健夫 1974. 日本の真正蜘蛛類相 (IV). 追手門学院大学文学部紀要, 8:169-173.



カラスハエトリ (♀)
大阪府茨木市福井
2013年5月26日 関西クモ研究会採集会
撮影：加村隆英

山門水源の森のクモ類 2

吉田 真・熊田 憲一・西川 喜朗・黒田 あき

はじめに

2011年7月に山門水源の森で行なったクモ類調査の結果は、昨年9月に発行されたくものいと46号に掲載されている。7月の調査では21科106種のクモが採集された。今回は、2011年10月から11月にかけて行なわれた調査の結果を報告する。

調査地と方法

以下の場所で採集を行った(図1)。括弧内に採集日を示す。おもに、ビーティングとシフティングで採集したが、見つけ取りやビットホールトラップによる採集も行った。

A: 斎苑駐車場 (10月11日)

B: 進入路 (10月11日)

C: 沢道 (10月23日)

E1: ワクドキの森 (2011年10月23日)

E2: ワクドキの森～首吊りの松 (11月3日)

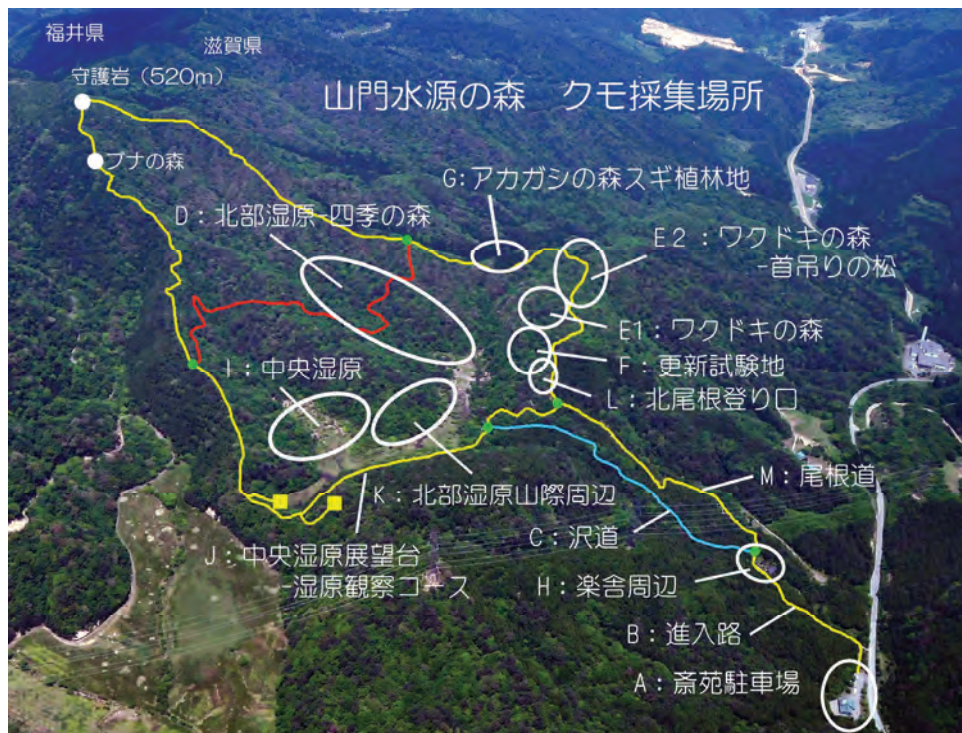


図1. 山門水源の森の調査地。

- F: 更新試験地 (10月23日)
 G: アカガシの森スギ植林地 (10月23日)
 H: 楽舎周辺 (10月11日)
 I: 中央湿原 (10月11日)
 J: 南部湿原展望台～湿原観察コース (10月11日)
 K: 北部湿原山際周辺 (10月11日)
 L: 北尾根登り口 (10月23日)
 M: 尾根道 (10月23日～24日)

結果と考察

今回の調査では28科144種が採集された(表1)。このうち、種レベルまで同定できたものが128種、同定できなかったものが16種であった。同定できなかった16種の中で、7種は幼体であり、残りの9種は成体であった。成体で同定できなかった9種は、未記載種または日本新記録種かもしれない。種数が多かった科は、ヒメグモ科(22種)、コガネグモ科(21種)、ハエトリグモ科(18種)、サラグモ科(17種)などであった。表2に採集されたクモのリストを示す。

☆は成体でありながら同定できなかった種であり、未記載種(=新種)または日本新記録種の可能性がある。また、*で示した種は、新海ら(2012)の滋賀県産クモ類目録、吉田ら(2012a)、吉田ら(2012b)のリストに載っていない滋賀県新記録種である。新記録種は、以下の16種であった：

イナバナミハグモ、ビワコガタナミハグモ(ナミハグモ科)、イブキクロヤチグモ(ヤ

表1. 採集された科と種数.

科	種数	未同定種数	科	種数	未同定種数
タマゴグモ科	2	0	アシナガグモ科	9	0
ユウレイグモ科	1	0	コガネグモ科	21	0
ウズグモ科	1	0	コマチグモ科	0	1
ナミハグモ科	2	1	シボグモ科	1	0
ハタケグモ科	1	0	ミヤマシボグモ科	0	1
ヤチグモ科	3	3	アシダカグモ科	1	0
タナグモ科	1	1	エビグモ科	3	0
キシダグモ科	3	0	ワシグモ科	2	1
コモリグモ科	4	0	カニグモ科	8	1
サラグモ科	13	4	フクログモ科	3	1
ヒメグモ科	22	0	イツツグモ科	1	0
カラカラグモ科	1	0	ウエムラグモ科	1	1
ヨリメグモ科	1	1	ネコグモ科	4	0
ジョロウグモ科	1	0	ハエトリグモ科	18	0
			合計	128	16

チグモ科), キバラコモリグモ (コモリグモ科), ツユグモ (アシダカグモ科), ヨツボシワシグモ (ワシグモ科), マメオニグモ (コガネグモ科), マダラフクログモ (フクログモ科), アトグロアカムネグモ, コデーニッツサラグモ, ノコバヤセサラグモ, フタエツノヌカグモ (サラグモ科), ヒメハナグモ (カニグモ科), イワテハエトリ, タイリクアリグモ, ヒメカラスハエトリ (ハエトリグモ科).

表 2. 採集されたクモのリスト. ☆は未記載種または日本新記録種の可能性がある種. *は滋賀県新記録種.

タマゴグモ科	サイトウヌカグモ	カラカラグモ科
アカハネグモ	ツノケシグモ?	ヤマジグモ
ダニグモ	ツリサラグモ	ヨリメグモ科
ユウレイグモ科	デーニッツサラグモ	ヨロイヒメグモ
ユウレイグモ	☆ニッポンケシグモの一種	コツブグモの一種?
ウズグモ科	*ノコバヤセサラグモ	ジョロウグモ科
マネキグモ	*フタエツノヌカグモ	ジョロウグモ
ナミハグモ科	フタスジサラグモ	アシナガグモ科
*イナバナミハグモ	ムネグロサラグモ	アシナガグモ
*ビワコガタナミハグモ	ユノハマサラグモ	ウロコアシナガグモ
☆ナミハグモの一種	ヤミサラグモの一種	オオクマヒメドヨウグモ
ハタケグモ科	ヨツボシサラグモの一種	キンヨウグモ
ハタケグモ	☆サラグモの一種1	シナノアシナガグモ
ヤチグモ科	☆サラグモの一種2	タニマノドヨウグモ
*イブキククロヤチグモ	ヒメグモ科	メガネドヨウグモ
☆カミガタヤチグモの一種	アシプトヒメグモ	ヤマジドヨウグモ
カメンヤチグモ	アマミミジグモ	コガネグモ科
☆ヒメシモフリヤチグモの一種	オナガグモ	イシサワオニグモ
ヨゴヤマヤチグモ	カグヤヒメグモ	オオクマヤミイロオニグモ
☆ヤチグモの一種	カニミジグモ	カラフトオニグモ
タナグモ科	カレハヒメグモ	キザハシオニグモ
コクサグモ	シモフリヒメグモ	キジロゴミグモ
☆コタナグモの一種	シモフリミジグモ	ギンメッキゴミグモ
キシダグモ科	スネグロオチバヒメグモ	ゲホウグモ
アオグロハシリグモ	ツリガネヒメグモ	コガタコガネグモ
アズマキシダグモ	ニホンヒメグモ	ゴミグモ
イオウイロハシリグモ	バラギヒメグモ	サガオニグモ
コモリグモ科	ヒシガタグモ	シマゴミグモ
イナダハリゲコモリグモ	フタオイソウロウグモ	シロスジショウジョウグモ
ウツキコモリグモ	ボカシミジグモ	トゲグモ
*キバラコモリグモ	ホシミドリヒメグモ	トリノフンダマシ
クラークコモリグモ	ムナボシヒメグモ	ヌサオニグモ
サラグモ科	ムラクモヒシガタグモ	ハツリグモ
*アトグロアカムネグモ	ヤマトミジグモ	ハラビロミドリオニグモ
*コデーニッツサラグモ	ヤリグモ	*マメオニグモ
	ユノハマヒメグモ	ムツボシオニグモ

ヤマゴミグモ	コハナグモ	ハエトリグモ科
ヨツデゴミグモ	セマルトラフカニグモ	アオオビハエトリ
コマチグモ科	ハナグモ	アメイロハエトリ
コマチグモの一種	*ヒメハナグモ	アリグモ
シボグモ科	ワカバグモ	イナズマハエトリ
シボグモ	カニグモの一種	*イワテハエトリ
ミヤマシボグモ科	フクログモ科	オスクロハエトリ
ミヤマシボグモモドキ?	クロサワフクログモ	ジャバラハエトリ
アシダカグモ科	☆フクログモの一種	シラホシコゲチャハエトリ
*ツユグモ	*マダラフクログモ	*タイリクアリグモ
エビグモ科	ヤギヌマフクログモ	デーニッツハエトリ
アサヒエビグモ	イツツグモ科	ネオンハエトリ
キエビグモ	イツツグモ	ネコハエトリ
シャコグモ	ウエムラグモ科	*ヒメカラスハエトリ
ワシグモ科	イタチグモ	マガネアサヒハエトリ
メキリグモ	タンボグモの一種	マミジロハエトリ
ヨリメケムリグモの一種	ネコグモ科	ミスジハエトリ
*ヨツボシワシグモ	オトヒメグモ	ヤサアリグモ
カニグモ科	コムラウラシマグモ	ヨダンハエトリ
アマギエビスグモ	ネコグモ	
クマダハナグモ	ヤバネウラシマグモ	

この森では、7月の調査では、21科106種のクモが採集されており、その中には、未記載種または日本新記録種の可能性があるものが1種、滋賀県新記録種が15種含まれていた(吉田ら, 2012a)。これに対して今回の10~11月の調査では28科144種と、7月よりもかなり多くの科と種が採集された。今回採集された種が多かったおもな原因は、今回新たに採集された科のクモが11種あったことと、ヤチグモ科・サラグモ科・ハエトリグモ科で多くのクモが採集されたことである。ヤチグモ科では、7月2種→今回6種、サラグモ科では、3種→17種、ハエトリグモ科では、8種→18種と種数は大幅に増加している。今回の調査ではさらに、未記載種または日本新記録種の可能性があるものが9種、滋賀県新記録種が16種採集された。

今回の結果は、その地域のクモ相が一回の調査だけでは十分に把握できないこと、季節を変えての調査が非常に有効であること、を示している。2011年の夏と秋の調査で山門水源の森のクモ相はかなり明らかになった。我々は、2012年6月にもこの森の調査を行なっている。その結果も近いうちにまとめ、この森のクモ相の概略を明らかにしたいと考えている。

謝辞

「山門水源の森を次世代に引き継ぐ会」の皆さんには、この森では原則的に禁止されている採集を許可していただいた。また今回の調査では、事務局長の藤本秀弘さん、伊藤博さんをはじめとする会員の皆さんが、調査場所の案内だけでなく、クモ類の採

集もしていただいた。さらに伊藤さんには、調査場所の地図の作成や GPS による緯度・経度・標高の測定などで多大のお世話になった。会の皆様のご厚意に深く感謝するものである。

またクモの同定については、井原庸さん、谷川明男さん、加村隆英さん、小池直樹さん、田中穂積さん、吉田哉さんからさまざまなご教示を受けた。厚く御礼申し上げます。

引用文献

小野展嗣 (編著) 2009. 日本産クモ類. 東海大学出版会, 738 pp, 神奈川.

新海明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生 2012. CD 日本のクモ Ver. 2012. 著者自刊, CD.

吉田真・社本吉正・小池直樹・原口岳 2012a. 龍谷の森で採集された滋賀県新記録種. くものいと, 46 : 12-14.

吉田真・熊田憲一・西川喜朗・黒田あき 2012b. 山門水源の森のクモ類. くものいと, 46 : 15-22.

付表. 山門水源の森のクモ類. 2011 年 10~11 月.

クモの性別と発育段階を, M : オス成体, F : メス成体, m : オス幼体, f : メス幼体, y : 幼体で示す。また, 採集者を, Kr : 黒田, Km : 熊田, N : 西川, Y : 吉田, S : スタッフ, IT : 伊藤孝子, I : 伊藤孝子・博, で示す。「スタッフ」は, 伊藤さんご夫妻以外の「山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会」の会員の方々である。

以下のリストでは, 科の配列は小野 (2009) に準じ, 種の配列は学名のアルファベット順で示した。☆は未記載種または日本新記録種の可能性がある種, *は滋賀県新記録種。

A : 斎苑駐車場 (北緯 35°33'17", 東経 136°07'36", 標高 210 m)

アシナガグモ科

ヤマジドヨウグモ *Meta reticuloides* F (Kr)

コガネグモ科

シマゴミグモ *Cyclosa omonaga* F (Kr)

トゲグモ *Gasteracantha kuhli* F (Kr)

ハエトリグモ科

アリグモ *Myrmarachne japonica* F (Kr)

B : 進入路 (北緯 35°33'20", 東経 136°07'34", 標高 220 m)

ヤチグモ科

ヨゴヤマヤチグモ *Tegeocoelotes yogoensis* f (Km)

タナグモ科

コクサグモ *Allagelena opulenta* F (Km)

キシダグモ科

アオグロハシリグモ *Dolomedes raptor* y (Km)

イオウイロハシリグモ *Dolomedes sulfureus* y (Km)

サラグモ科

サイトウヌカグモ *Ainerigone saitoi* f (Km)

ユノハマサラグモ *Turinyphia yunohamensis* f (Km)

ヒメグモ科

オナガグモ <i>Ariamnes cylindrogaster</i>	m (Km)
フタオイソウロウグモ <i>Neospintharus fur</i>	f (Km)
ニホンヒメグモ <i>Parasteatoda japonica</i>	Fy (Km)
ヤマトミジグモ <i>Phycosoma japonicum</i>	M (Km)
カニミジグモ <i>Phycosoma mustelinum</i>	Ff (Km)
バラギヒメグモ <i>Takayus chikunii</i>	f (Km)
ボカシミジグモ <i>Yaginumena castrata</i>	f (Km)

アシナガグモ科

キンヨウグモ <i>Menosira ornata</i>	M (Km)
シナノアシナガグモ <i>Tetragnatha shinanoensis</i>	f (Km)
ウロコアシナガグモ <i>Tetragnatha squamata</i>	f (Km)

コガネグモ科

*マメオニグモ <i>Araneus nojimai</i>	f (Km)
ヨツデゴミグモ <i>Cyclosa sedeculata</i>	m (Km)

エビグモ科

シャコグモ <i>Tibellus japonicus</i>	f (Km)
---------------------------------	--------

カニグモ科

ワカバグモ <i>Oxytate striatipes</i>	f (Km)
---------------------------------	--------

フクログモ科

クロサワフクログモ <i>Clubiona kurosawai</i>	M (Km)
ヤギヌマフクログモ <i>Clubiona yaginumai</i>	f (Km)

ネコグモ科

ネコグモ <i>Trachelas japonicus</i>	mf (Km)
---------------------------------	---------

ハエトリグモ科

マミジロハエトリ <i>Evarcha albaria</i>	F (Km)
ヤサアリグモ <i>Myrmarachne inermichelis</i>	f (Km)
マガネアサヒハエトリ <i>Phintella arenicolor</i>	mf (Km)
デーニッツハエトリ <i>Plexippoides doenitzi</i>	MFf (Km)

C: 沢道 (北緯 35°33'23", 東経 136°07'20", 標高 260m)

タマゴグモ科

ダニグモ <i>Gamasomorpha cataphracta</i>	F (Y)
--------------------------------------	-------

ナミハグモ科

*ビワコガタナミハグモ <i>Cybaeus biwaensis</i>	M (Y)
--------------------------------------	-------

ヤチグモ科

カメンヤチグモ <i>Coelotes personatus</i>	M (Y)
ヨゴヤマヤチグモ <i>Tegeocoelotes yogoensis</i>	M (Y)

コモリグモ科

カイゾクコモリグモの一種 <i>Pirata</i> sp.	y (Y)
--------------------------------	-------

サラグモ科

ヤミサラグモの一種 <i>Arcuphantes</i> sp.	y (Y)
デーニッツサラグモ <i>Doenitzius peniculus</i>	M (Y)
*ノコバヤセサラグモ <i>Lepthyphantes serratus</i>	M (Y)
サラグモの一種 <i>Linyphiidae</i> gen. sp.	y (Y)

ヒメグモ科

カニミジグモ <i>Phycosoma mustelinum</i>	y (Y)
------------------------------------	-------

くものいと, No. 47 (March 2014)

ヒメグモの一種	Theridiidae gen. sp.	y (Y)
ワシグモ科		
ワシグモの一種	Gnaphosidae gen. sp.	y (Y)

E1: ワクドキの森 (北緯 35°33'32", 東経 136°07'16", 標高 345 m)

ヤチグモ科		
ヤチグモの一種	Coelotidae gen. sp.	y (S)
タナグモ科		
コクサグモ	<i>Allagelena opulenta</i>	F (S)
キシダグモ科		
ハシリグモの一種	<i>Dolomedes</i> sp.	y (S)
サラグモ科		
アイヌコサラグモの一種	<i>Ainerigone</i> sp.	y (Y)
ツリサラグモ	<i>Neriene japonica</i>	y (S)
ユノハマサラグモ	<i>Turinyphia yunohamensis</i>	y (Y)
ヒメグモ科		
アシプトヒメグモ	<i>Anelosimus crassipes</i>	y (Y)
カレハヒメグモ	<i>Enoplognatha abrupta</i>	My (S)
ヒシガタグモ	<i>Episinus affinis</i>	y (S)
フタオイソウロウグモ	<i>Neospintharus fur</i>	y (S)
カグヤヒメグモ	<i>Parasteatoda culicivora</i>	y (S)
ムナボシヒメグモ	<i>Platnickina sterninotata</i>	Fy (S)
ボカシミジグモ	<i>Yaginumena castrata</i>	y (Y)
ジョロウグモ科		
ジョロウグモ	<i>Nephila clavata</i>	F (Y)
アシナガグモ科		
シロカネグモの一種	<i>Leucauge</i> sp.	y (S)
キンヨウグモ	<i>Menosira ornata</i>	MF (S)
アシナガグモの一種	<i>Tetragnatha</i> sp.	y (Y)
コガネグモ科		
イシサワオニグモ	<i>Araneus ishisawai</i>	F (S)
キジロゴミグモ	<i>Cyclosa laticauda</i>	m (S)
ヤマゴミグモ	<i>Cyclosa monticola</i>	y (Y)
ゴミグモの一種	<i>Cyclosa</i> sp.	y (Y)
サガオニグモ	<i>Plebs astridae</i>	my (S)
カラフトオニグモ	<i>Plebs sachalinensis</i>	y (Y)
コマチグモ科		
コマチグモの一種	<i>Chiracanthium</i> sp.	y (S)
エビグモ科		
アサヒエビグモ	<i>Philodromus subaureolus</i>	y (Y)
カニグモ科		
ワカバグモ	<i>Oxytate striatipes</i>	y (S)
セマルトラフカニグモ	<i>Tmarus rimosus</i>	y (Y)
フクログモ科		
クロサワフクログモ	<i>Clubiona kurosawai</i>	F (S)
☆フクログモの一種	<i>Clubiona</i> sp.	y (S)

ネコグモ科ネコグモ *Trachelas japonicus* y (S)**ハエトリグモ科**マミジロハエトリ *Evarcha albaria* y (S)ジャバラハエトリ *Helicium yaginumai* MFy (Y)アリグモの一種 *Myrmarachne* sp. y (Y)デーニッツハエトリ *Plexippoides doenitzi* Fmy (S)ハエトリグモの一種 *Salticidae* gen. sp. y (S)**E2: ワクドキの森~首吊りの松 (北緯 35°33'35", 東経 136°07'15", 標高 345 m)****タナグモ科**コクサグモ *Allagelena opulenta* F (IT)**サラグモ科**アイヌコサラグモの一種 *Ainerigone* sp. y (IT)**ヒメグモ科**アシプトヒメグモ *Anelosimus crassipes* y (IT)ホシミドリヒメグモ *Chryso foliata* y (IT)カレハヒメグモ *Enoplognatha abrupta* y (IT)ヒシガタグモ *Episinus affinis* my (IT)カグヤヒメグモ *Parasteatoda culicivora* y (IT)ムナボシヒメグモ *Platnickina sterninotata* y (IT)ボカシミジグモ *Yaginumena castrata* y (IT)シモフリヒメグモ *Yunohamella lyrica* y (IT)**アシナガグモ科**ヤマジドヨウグモ *Meta reticuloides* F (IT)アシナガグモの一種 *Tetragnatha* sp. y (IT)**コガネグモ科**ムツボシオニグモの一種 *Araniella* sp. y (IT)ゴミグモの一種 *Cyclosa* sp. y (IT)サガオニグモ *Plebs astridae* m (IT)カラフトオニグモ *Plebs sachalinensis* y (IT)**コマチグモ科**コマチグモの一種 *Chiracanthium* sp. y (IT)**エビグモ科**アサヒエビグモ *Philodromus subaureolus* y (IT)**カニグモ科**ワカバグモ *Oxytate striatipes* y (IT)セマルトラフカニグモ *Tmarus rimosus* y (IT)**フクログモ科**クロサワフクログモ *Clubiona kurosawai* F (IT)**ネコグモ科**ネコグモ *Trachelas japonicus* y (IT)**ハエトリグモ科**オスクロハエトリの一種 *Mendoza* sp. y (IT)デーニッツハエトリ *Plexippoides doenitzi* y (IT)

F : 更新試験地 (北緯 35°33'29", 東経 136°07'18", 標高 340)

ナミハグモ科	
*イナバナミハグモ <i>Cybaeus tottoriensis</i>	M (Y)
☆ナミハグモの一種 <i>Cybaeus</i> sp.	F (Y)
ヤチグモ科	
ヤチグモの一種 <i>Coelotidae</i> gen. sp.	y (Y, Kr)
キシダグモ科	
ハシリグモの一種 <i>Dolomedes</i> sp.	y (Y)
コモリグモ科	
カイゾクコモリグモの一種 <i>Pirata</i> sp.	y (Y)
サラグモ科	
アイヌコサラグモの一種 <i>Ainerigone</i> sp.	y (Y)
ヤミサラグモの一種 <i>Arcuphantes</i> sp.	my (Y)
フタスジサラグモ <i>Nerienne limbatinella</i>	F (Kr)
コウシサラグモの一種 <i>Nerienne</i> sp.	my (Kr)
ヨツボシサラグモの一種 <i>Srtandella</i> sp.	y (Y)
サラグモの一種 <i>Linyphiidae</i> gen. sp.	y (Y)
ヒメグモ科	
ホシミドリヒメグモ <i>Chryso foliata</i>	y (Y)
カレハヒメグモ <i>Enoplognatha abrupta</i>	mFfy (Kr)
ヒシガタグモ <i>Episinus affinis</i>	y (Y)
ツリガネヒメグモ <i>Parasteatoda angulithorax</i>	y (Y)
カグヤヒメグモ <i>Parasteatoda culicivora</i>	y (Y)
カニミジグモ <i>Phycosoma mustelinum</i>	my (Y)
ムナボシヒメグモ <i>Platnickina sterninotata</i>	F (Y)
ジョロウグモ科	
ジョロウグモ <i>Nephila clavata</i> .	F (Y)
アシナガグモ科	
シロカネグモの一種 <i>Leucauge</i> sp.	y (Y)
キンヨウグモ <i>Menosira ornata</i>	F (Y), M (Kr)
ウロコアシナガグモ <i>Tetragnatha squamata</i>	y (Kr)
アシナガグモの一種 <i>Tetragnatha</i> sp.	y (Y)
コガネグモ科	
オニグモの一種 <i>Aranes</i> sp.	m (Y)
キジロゴミグモ <i>Cyclosa laticauda</i>	y (Kr)
サガオニグモ <i>Plebs astridae</i>	y (Y)
カラフトオニグモ <i>Plebs sachalinensis</i>	f (Kr)
シボグモ科	
シボグモ <i>Anahita fauna</i>	y (Y)
エビグモ科	
アサヒエビグモ <i>Philodromus subaureolus</i>	y (Y)
シャコグモ <i>Tibellus japonicus</i>	y (Y)
カニグモ科	
ワカバグモ <i>Oxytate striatipes</i>	y (Y), f (Kr)
セマルトラフカニグモ <i>Tmarus rimosus</i>	y (Y)
ウエムラグモ科	
イタチグモ <i>Prochora praticola</i>	y (Y)

ネコグモ科

ネコグモ *Trachelas japonicus* y (Y), m (Kr)

ハエトリグモ科

マミジロハエトリ *Evarcha albaria* M (Kr)

アリグモ属の一種 *Myrmarachne* sp. y (Kr)

デーニッツハエトリ *Plexippoides doenitzi* My (Y)

カラスハエトリの一種 *Rhene* sp. y (Kr), y (Y)

シラホシコゲチャハエトリ *Sitticus penicillatus* m (Kr)

アメイロハエトリ *Synagelides agoriformis* M (Y)

G : アカガシの森スギ植林地 (北緯 35°33'35", 東経 136°07'11", 標高 320 m)

ナミハグモ科

*ビワコガタナミハグモ *Cybaeus biwaensis* MF (I)

ヤチグモ科

☆カミガタヤチグモの一種 *Coelotes yaginumai* M (I)

ヤチグモの一種 *Coelotidae* gen. sp. y (I)

サラグモ科

ヤミサラグモの一種 *Arcuphantes* sp. my (I)

デーニッツサラグモ *Doenitzius peniculus* MF (I)

コデーニッツサラグモ *Doenitzius pruvus* F (I)

ツリサラグモ *Neriene japonica* y (S)

ムネグロサラ *Neriene nigripectoris* y (I)

ノコバヤセサラグモ? *Leptyphantes serratus* ? F (I)

ツノケシグモ? *Nippononeta projecta* ? F (I)

☆ニッポンケシグモの一種 *Nippononeta* sp. Mm (I)

*フタエツノヌカグモ *Paikiniana keikoe* F (I)

ユノハマサラグモ *Turinyphia yunohamensis* my (I)

☆サラグモの一種 1 *Linyphiidae* gen. sp. 1 F (I)

☆サラグモの一種 2 *Linyphiidae* gen. sp. 2 M (I)

ヒメグモ科

ホシミドリヒメグモ *Chryso foliata* y (S)

カレハヒメグモ *Enoplognatha abrupta* y (I)

ヒシガタグモ *Episinus affinis* y (I)

カグヤヒメグモ *Parasteatoda culicivora* y (S)

カニミジグモ *Phycosoma mustelinum* Fmy (I)

ミジグモの一種 m (I)

ムナボシヒメグモ *Platnickina sterninotata* Fy (I)

スネグロオチバヒメグモ *Stemmops nipponicus* Fmy (I)

アシナガグモ科

オオクマヒメドヨウグモ *Diphya okumae* y (I)

コガネグモ科

コガネグモの一種 *Argiope* sp. y (S)

サガオニグモ *Plebs astridae* my (I)

カラフトオニグモ *Plebs sachalinensis* y (I)

ワシグモ科

ワシグモの一種 *Gnaphosidae* gen. sp. y (I)

カニグモ科	
カニグモの一種 <i>Xysticus</i> sp.	y (I)
イツツグモ科	
イツツグモ <i>Anyphaena pugil</i>	F (I)
ウエムラグモ科	
イタチグモ <i>Prochora praticola</i>	my (I)
ネコグモ科	
コムラウラシマグモ <i>Otacilia komurai</i>	F (I)
ハエトリグモ科	
ネオンハエトリ <i>Neon reticulatus</i>	Fmy (I)
デーニッツハエトリ <i>Plexippoides doenitzi</i>	MF (S)
H : 楽舎周辺 (北緯 35°33'21", 東経 136°07'31", 標高 226 m)	
タマゴグモ科	
アカハネグモ <i>Orchestina sanguinea</i>	f (Km)
ウズグモ科	
マネキグモ <i>Miagrammopes orientalis</i>	Fy (Kr)
ヤチグモ科	
ヨゴヤマヤチグモ <i>Tegeocoelotes yogoensis</i>	MF (Km)
キシダグモ科	
アオグロハシリグモ <i>Dolomedes raptor</i>	y (Km)
アズマキシダグモ <i>Pisaura lama</i>	f (Km)
コモリグモ科	
*キバラコモリグモ <i>Pirata subpiraticus</i>	F (Kr)
サラグモ科	
ユノハマサラグモ <i>Turinyphia yunohamensis</i>	f (Km)
*アトグロアカムネグモ <i>Ummeliata feminea</i>	M (Kr)
ヒメグモ科	
オナガグモ <i>Ariamnes cylindrogaster</i>	f (Km, Kr)
カレハヒメグモ <i>Enoplognatha abrupta</i>	f (Kr)
ヒシガタグモ <i>Episinus affinis</i>	f (Km)
カグヤヒメグモ <i>Parasteatoda culicivora</i>	y (Km)
ニホンヒメグモ <i>Parasteatoda japonica</i>	y (Km), F (Kr)
カニミジグモ <i>Phycosoma mustelinum</i>	M (Km, Kr)
ムナボシヒメグモ <i>Platnickina sterninotata</i>	m (Km)
ヤリグモ <i>Rhomphaea sagana</i>	f (Km)
ユノハマヒメグモ <i>Yunohamella yunohamensis</i>	f (Km)
アシナガグモ科	
キンヨウグモ <i>Menosira ornata</i>	F (Km), M (Kr)
ヤマジドヨウグモ <i>Meta reticuloides</i>	F (Km), FM (Kr)
タニマノドヨウグモ <i>Metleucauge kompirensis</i>	f (Km)
メガネドヨウグモ <i>Metleucauge yunohamensis</i>	f (Km)
ウロコアシナガグモ <i>Tetragnatha squamata</i>	f (Km)
コガネグモ科	
オオクマヤミイロオニグモ <i>Araneus acuisetus</i>	mf (Km)
コガタコガネグモ <i>Argiope minuta</i>	F (Km)
ヨツデゴミグモ <i>Cyclosa sedeculata</i>	mf (Km)

シロスジシヨウジヨウグモ <i>Hypsosinga sanguinea</i>	F (Kr)
サガオニグモ <i>Plebs astridae</i>	f (Km)
カラフトオニグモ <i>Plebs sachalinensis</i>	f (Km)
ミヤマシボグモ科	
ミヤマシボグモモドキ? <i>Zora nemoralis</i> ?	f (Kr)
カニグモ科	
コハナグモ <i>Diaea subdola</i>	f (Km), y (Kr)
クマダハナグモ <i>Ebelingia kumadai</i>	f (Kr)
ハナグモ <i>Ebrechtella tricuspida</i>	f (Kr)
*ヒメハナグモ <i>Misumena vatia</i>	f (Kr)
ワカバグモ <i>Oxytate striatipes</i>	mfy (Kr)
カニグモの一種 <i>Xysticus</i> sp.	f (Kr)
フクログモ科	
☆フクログモの一種 <i>Clubiona</i> sp.	M (Km)
ネコグモ科	
ヤバネウラシマグモ <i>Phrurolithus pennatus</i>	F (Kr)
ハエトリグモ科	
マミジロハエトリ <i>Evarcha albaria</i>	M (Kr)
*タイリクアリグモ <i>Myrmarachne formicaria</i>	f (Km)
ヤサアリグモ <i>Myrmarachne inermichelis</i>	f (Km)
アリグモの一種 <i>Myrmarachne</i> sp.	y (Kr)
マガネアサヒハエトリ <i>Phintella arenicolor</i>	mf (Km)
デーニツツハエトリ <i>Plexippoides doenitzi</i>	f (Km)
ミスジハエトリ <i>Plexippus setipes</i>	f (Kr)
アオオビハエトリ <i>Siler cupreus</i>	m (Kr)
I: 中央湿原 (北緯 35°33'19", 東経 136°07'08", 標高 290 m)	
タナグモ科	
コクサグモ <i>Allagelena opulenta</i>	F (Km)
キシダグモ科	
アオグロハシリグモ <i>Dolomedes raptor</i>	y (Km)
イオウイロハシリグモ <i>Dolomedes sulfurous</i>	fy (Km)
アズマキシダグモ <i>Pisaura lama</i>	f (Km)
コモリグモ科	
ウヅキコモリグモ <i>Pardosa astrigera</i>	f (Km)
サラグモ科	
サイトウヌカグモ <i>Ainerigone saitoi</i>	f (Km)
ムネグロサラグモ <i>Neriene nigripectoris</i>	f (Km)
ヒメグモ科	
アシプトヒメグモ <i>Anelosimus crassipes</i>	mf (Km)
ヒシガタグモ <i>Episinus affinis</i>	fy (Km)
ニホンヒメグモ <i>Parasteatoda japonica</i>	Fy (Km)
アマミミジグモ <i>Phycosoma amamiense</i>	mf (Km)
ムナボシヒメグモ <i>Platnickina sterninotata</i>	y (Km)
バラギヒメグモ <i>Takayus chikunii</i>	y (Km)
ジョロウグモ科	
ジョロウグモ <i>Nephila clavata</i>	M (Km)

アシナガグモ科

キンヨウグモ <i>Menosira ornata</i>	MF (Km)
アシナガグモ <i>Tetragnatha praedonia</i>	y (Km)
ウロコアシナガグモ <i>Tetragnatha squamata</i>	f (Km)

アシダカグモ科

* ツユグモ <i>Micrommata virescens</i>	f (Km)
------------------------------------	--------

コガネグモ科

ヌサオニグモ <i>Araneus ejusmodi</i>	y (Km)
マメオニグモ <i>Araneus nojimai</i>	f (Km)
ハラビロミドリオニグモ <i>Araneus viridiventris</i>	y (Km)
トリノフンダマシ <i>Cyrtarachne bufo</i>	F (Km)
キザハシオニグモ <i>Gibbaranea abscissa</i>	f (Km)
ゲホウグモ <i>Poltys illepidus</i>	y (Km)

エビグモ科

キエビグモ <i>Philodromus emarginatus</i>	y (Km)
アサヒエビグモ <i>Philodromus subaureolus</i>	y (Km)
シャコグモ <i>Tibellus japonicus</i>	y (Km)

カニグモ科

コハナグモ <i>Diaea subdola</i>	f (Km)
クマダハナグモ <i>Ebelingia kumadai</i>	f (Km)
アマギエビスグモ <i>Lysiteles coronatus</i>	m (Km)
セマルトラフカニグモ <i>Tmarus rimosus</i>	y (Km)
ワカバグモ <i>Oxytate striatipes</i>	m (Km)

イツツグモ科

イツツグモ <i>Anyphaena pugil</i>	m (Km)
------------------------------	--------

ネコグモ科

オトヒメグモ <i>Orthobula crucifera</i>	F (Km)
-----------------------------------	--------

ハエトリグモ科

ネコハエトリ <i>Carrhotus xanthogramma</i>	f (Km)
オスクロハエトリ <i>Mendoza canestrinii</i>	f (Km)
マガネアサヒハエトリ <i>Phintella arenicolor</i>	mf (Km)
デーニッツハエトリ <i>Plexippoides doenitzi</i>	M (Km)
イナズマハエトリ <i>Pseudicius vulpes</i>	mf (Km)
* ヒメカラスハエトリ <i>Rhene albigera</i>	f (Km)

J: 南部湿原展望台～湿原観察コース (北緯 35°33'19", 東経 136°07'11", 標高 296 m)

タマゴグモ科

アカハネグモ <i>Orchestina sanguinea</i>	f (Km)
------------------------------------	--------

ユウレイグモ科

ユウレイグモ <i>Pholcus crypticolens</i>	f (Km)
------------------------------------	--------

ヤチグモ科

* ヒメシモフリヤチグモの一種 <i>Iwogumoa</i> sp.	F (Km)
ヨゴヤマヤチグモ <i>Tegeocoelotes yogoensis</i>	Mf (Km)

タナグモ科

コクサグモ <i>Allagelena opulenta</i>	F (Km)
----------------------------------	--------

キシダグモ科

アオグロハシリグモ <i>Dolomedes raptor</i>	y (Km)
-----------------------------------	--------

イオウイロハシリグモ <i>Dolomedes sulfureus</i>	fy (Km)
アズマキシダグモ <i>Pisaura lama</i>	f (Km)
サラグモ科	
ツリサラグモ <i>Neriene japonica</i>	f (Km)
ムネグロサラグモ <i>Neriene nigripectoris</i>	mf (Km)
ユノハマサラグモ <i>Turinyphia yunohamensis</i>	f (Km)
ヒメグモ科	
アシブトヒメグモ <i>Anelosimus crassipes</i>	mfy (Km)
オナガグモ <i>Ariamnes cylindrogaster</i>	f (Km)
ホシミドリヒメグモ <i>Chryso foliata</i>	f (Km)
カレハヒメグモ <i>Enoplognatha abrupta</i>	mf (Km)
ムラクモヒシガタグモ <i>Episus nubilus</i>	m (Km)
ヒシガタグモ <i>Episus affinis</i>	fy (Km)
フタオイソウロウグモ <i>Neospintharus fur</i>	m (Km)
カグヤヒメグモ <i>Parasteatoda culicivora</i>	F (Km)
カニミジグモ <i>Phycosoma mustelinum</i>	MmFf (Km)
バラギヒメグモ <i>Takayus chikunii</i>	f (Km)
カラカラグモ科	
ヤマジグモ <i>Ogulnius pullus</i>	F (Km)
ジョロウグモ科	
ジョロウグモ <i>Nephila clavata</i>	F (Km)
アシナガグモ科	
キンヨウグモ <i>Menosira ornata</i>	MF (Km)
ヤマジドヨウグモ <i>Meta reticuloides</i>	F (Km)
ヤサガタアシナガグモ <i>Tetragnatha maxillosa</i>	f (Km)
コガネグモ科	
オオクマヤミイロオニグモ <i>Araneus acusisetus</i>	f (Km)
イシサワオニグモ <i>Araneus ishisawai</i>	F (Km)
マメオニグモ <i>Araneus nojimai</i>	m (Km)
ゴミグモ <i>Cyclosa octotuberculata</i>	f (Km)
ヨツデゴミグモ <i>Cyclosa sedeculata</i>	f (Km)
シロスジショウジョウグモ <i>Hypsosinga sanguinea</i>	m (Km)
カラフトオニグモ <i>Plebs sachalinensis</i>	f (Km)
エビグモ科	
アサヒエビグモ <i>Philodromus subaureolus</i>	f (Km)
シャコグモ <i>Tibellus japonicus</i>	f (Km)
カニグモ科	
コハナグモ <i>Diaea subdola</i>	mf (Km)
クマダハナグモ <i>Ebelingia kumadai</i>	f (Km)
アマギエビスグモ <i>Lysiteles coronatus</i>	f (Km)
ワカバグモ <i>Oxytate striatipes</i>	mf (Km)
セマルトラフカニグモ <i>Tmarus rimosus</i>	y (Km)
フクログモ科	
ヤギヌマフクログモ <i>Clubiona yaginumai</i>	f (Km)
☆フクログモの一種 <i>Clubiona</i> sp.	M (Km)
ネコグモ科	
ネコグモ <i>Trachelas japonicus</i>	mf (Km)

ハエトリグモ科

ジャバラハエトリ <i>Helicium yaginumai</i>	MFf (Km)
ヨダンハエトリ <i>Marpissa pulla</i>	f (Km)
ヤサアリグモ <i>Myrmarachne inermichelis</i>	f (Km)
アリグモ <i>Myrmarachne japonica</i>	f (Km)
マガネアサヒハエトリ <i>Phintella arenicolor</i>	mf (Km)
デーニッツハエトリ <i>Plexippoides doenitzi</i>	MFf (Km)

K: 北部湿原山際周辺 (北緯 35°33'26", 東経 136°07'14", 標高 290 m)

タマゴグモ科

ダニグモ <i>Gamasomorpha cataphracta</i>	F (Km)
アカハネグモ <i>Orchestina sanguinea</i>	f (Km)

ハタケグモ科

ハタケグモ <i>Hahnina corticicola</i>	F (Km)
----------------------------------	--------

ヤチグモ科

*ヤチグモの一種 <i>Coelotidae</i> gen. sp.	F (Km)
ヨゴヤマヤチグモ <i>Tegeocoelotes yogoensis</i>	f (Km)

キシダグモ科

アズマキシダグモ <i>Pisaura lama</i>	f (Km)
------------------------------	--------

コモリグモ科

イナダハリゲコモリグモ <i>Pardosa agraria</i>	m (Km)
ウヅキコモリグモ <i>Pardosa astrigera</i>	m (Km)
クラークコモリグモ <i>Piratula clercki</i>	F (Km)

サラグモ科

サイトウヌカグモ <i>Ainerigone saitoi</i>	f (Km)
デーニッツサラグモ <i>Doenitzius peniculus</i>	m (Km)
*コデーニッツサラグモ <i>Doenitzius pruvus</i>	mf (Km)
ツリサラグモ <i>Neriene japonica</i>	f (Km)
ムネグロサラグモ <i>Neriene nigripectoris</i>	mf (Km)

ヒメグモ科

アシプトヒメグモ <i>Anelosimus crassipes</i>	f (Km)
ホシミドリヒメグモ <i>Chryso foliata</i>	m (Km)
シモフリミジグモ <i>Dipoena punctisparsa</i>	f (Km)
ヒシガタグモ <i>Episinus affinis</i>	f (Km)
フタオイソウロウグモ <i>Neospintharus fur</i>	mf (Km)
カニミジグモ <i>Phycosoma mustelinum</i>	MFm (Km)
ムナボシヒメグモ <i>Platnickina sterninotata</i>	mfy (Km)
スネグロオチバヒメグモ <i>Stemmops nipponicus</i>	mf (Km)
ボカシミジグモ <i>Yaginumena castrata</i>	y (Km)
ユノハマヒメグモ <i>Yunohamella yunohamensis</i>	f (Km)

ヨリメグモ科

ヨロイヒメグモ <i>Comaroma maculosa</i>	F (Km)
----------------------------------	--------

ジョロウグモ科

ジョロウグモ <i>Nephila clavata</i>	F (Km)
-------------------------------	--------

アシナガグモ科

キンヨウグモ <i>Menosira ornata</i>	MF (Km)
アシナガグモ <i>Tetragnatha praedonia</i>	y (Km)

ウロコアシナガグモ <i>Tetragnatha squamata</i>	f (Km)
ヤサガタアシナガグモ <i>Tetragnatha maxillosa</i>	f (Km)
コガネグモ科	
ハツリグモ <i>Acusilas coccineus</i>	MF (Km)
イシサワオニグモ <i>Araneus ishisawai</i>	F (Km)
マメオニグモ <i>Araneus nojimai</i>	f (Km)
ハラビロミドリオニグモ <i>Araneus viridiventris</i>	f (Km)
ムツボシオニグモ <i>Araniella yaginumai</i>	f (Km)
ギンメッキゴミグモ <i>Cyclosa argenteoalba</i>	f (Km)
ヨツデゴミグモ <i>Cyclosa sedeculata</i>	f (Km)
トゲグモ <i>Gasteracantha kuhli</i>	F (Km)
カラフトオニグモ <i>Plebs sachalinensis</i>	f (Km)
シボグモ科	
シボグモ <i>Anahita fauna</i>	fy (Km)
エビグモ科	
アサヒエビグモ <i>Philodromus subaureolus</i>	y (Km)
ワシグモ科	
メキリグモ <i>Gnaphosa kompirensis</i>	m (Km)
*ヨツボシワシグモ <i>Kishidaia albimaculata</i>	f (Km)
カニグモ科	
コハナグモ <i>Diaea subdola</i>	fy (Km)
クマダハナグモ <i>Ebelingia kumadai</i>	m (Km)
アマギエビスグモ <i>Lysiteles coronatus</i>	mf (Km)
ワカバグモ <i>Oxytate striatipes</i>	mf (Km)
セマルトラフカニグモ <i>Tmarus rimosus</i>	y (Km)
フクログモ科	
クロサワフクログモ <i>Clubiona kurosawai</i>	f (Km)
*マダラフクログモ <i>Clubiona deletrix</i>	f (Km)
ウエムラグモ科	
タンボグモの一種 <i>Agroeca</i> sp.	m (Km)
イタチグモ <i>Prochora praticola</i>	f (Km)
ネコグモ科	
オトヒメグモ <i>Orthobula crucifera</i>	M (Km)
コムラウラシマグモ <i>Otacilia komurai</i>	F (Km)
ネコグモ <i>Trachelas japonicus</i>	mf (Km)
ハエトリグモ科	
ネコハエトリ <i>Carrhotus xanthogramma</i>	f (Km)
ジャバラハエトリ <i>Helicium yaginumai</i>	Mf (Km)
アリグモ <i>Myrmarachne japonica</i>	f (Km)
マガネアサヒハエトリ <i>Phintella arenicolor</i>	f (Km)
デーニツハエトリ <i>Plexippoides doenitzi</i>	MFf (Km)
*イワテハエトリ <i>Pseudeuophrys iwatensis</i>	mf (Km)
アメイロハエトリ <i>Synagelides agoriformis</i>	F (Km)
L : 北尾根登り口 (北緯 35°33'28", 東経 136°07'17", 標高 340 m)	
ヨリメグモ科	
コツブグモの一種? <i>Mysmenella</i> sp. ?	y (N)

くものいと, No. 47 (March 2014)

ワシグモ科

ヨリメケムリグモの一種 *Drassyllus* sp. m (N)

ウエムラグモ科

イタチグモ *Prochora praticola* y (N)

M: 尾根道 (北緯 35°33'22", 東経 136°07'28", 標高 260 m)

ハタケグモ科

ハタケグモ *Hahnica corticicola* MFm (N)

ヤチグモ科

*イブキクロヤチグモ *Coelotes robustior* M (N)

タナグモ科

☆コタナグモの一種 *Cicurina* sp. M (N)

サラグモ科

サラグモの一種 *Linyphiidae* gen. sp. M (N)

ヒメグモ科

スネグロオチバヒメグモ *Stemmops nipponicus* m (N)

ウエムラグモ科

イタチグモ *Prochora praticola* y (N)

ネコグモ科

コムラウラシマグモ *Otacilia komurai* M (N)

ハエトリグモ科

アメイロハエトリ *Synagelides agoriformis* M (N)

セアカゴケグモ報告 -和歌山県橋本市-

赤松 史憲

先日、家族で橋本市へ出かけた際に、何気なく立ち寄ったコンビニエンスストアで、セアカゴケグモを見かけましたので報告させていただきます。

場所：和歌山県橋本市内某コンビニエンスストア

日時：2013年9月8日

この時に撮った写真を次ページに示します。地表付近は言うに及ばず、写真にあるように、オニグモ達に紛れて、コンビニエンスストアの屋根のひさし部分にまでセアカゴケグモが巣を張り、成体が我が物顔で陣取っていました。海外では人家の地表付近以外でもセアカゴケグモが生息していると聞いていましたが、国内でもこのような形で上の方まで進出しているのかと、適応力の拡大に驚かされ、思わず写真を撮りました。このコンビニエンスストアのみについて言えば、セアカゴケグモ以外のクモの



個体数に対してセアカゴケグモの生息個体数は圧倒的に多い状況にありました。

今まで、在来のクモの空いたニッチに入り込んで国内の生息場所を確保してきたと言われてきたセアカゴケグモですが、これを見るにつけ、国内の他のクモとの競争関係が生まれているように思えます。ちなみに、周囲の他のコンビニエンスストアでも同様の状況にあるのかと車を走らせてみましたが、この状況はコンビニエンスストアのみにしかみられませんでした。

橋本市は和歌山県でも冬になると雪が積もる地域で、セアカゴケグモの原産地からすると、生息しにくい環境にあると思われます。この状況が一時的なものなのか、これから拡大していくのか、定期的に観察し、またこの場で報告できればと思っています。

関西クモ研究会 採集会の記録 (宝が池公園)

2012年9月22日に実施された宝が池公園(京都市左京区)での採集会で得られたクモを報告する。

参加者: 伊藤博, 田中穂積, 竹内正幸, 山田廣士, 西川喜朗, 西本裕, 浅川正, 伊規須貞子, 吉田真 (9名)。

採集されたクモ類

科の配列は小野(2009)に, 学名は谷川(2012)に準拠している。同定は吉田が行なった。

ユウレイグモ科

ユウレイグモ *Pholcus crypticolens* 幼体

ハグモ科

ネコハグモ *Dictyna felis* ♂成体, 幼体

ウズグモ科

マネキグモ *Miagrammopes orientalis* 幼体

ヤマウズグモ *Octonoba varians* ♀成体, 幼体

タナグモ科

コクサグモ *Allagelena opulenta* ♂成体, ♀成体

キシダグモ科

アズマキシダグモ *Pisaura lama* 幼体

ササグモ科

ササグモ *Oxyopes sertatus* 幼体

センシヨウグモ科

オオセンシヨウグモ *Mimetus testaceus* ♂成体

サラグモ科

クロナンキングモ *Hylyphantes graminicola* ♂成体, ♀成体

アシナガサラグモ *Neriene longipedella* ♀成体

ユノハマサラグモ *Turinyphia yunohamensi* 幼体

ヒメグモ科

シロカネイソウロウグモ *Argyrodes bonadea* ♀成体

チリイソウロウグモ *Argyrodes kumadai* ♀成体, 幼体

オナガグモ *Ariamnes cylindrogaster* 幼体

カグヤヒメグモ *Parasteatoda culicivora* ♂成体, ♀成体, 幼体

オオヒメグモ *Parasteatoda tepidariorum* ♀成体, 幼体

カニミジグモ *Phycosoma mustelinum* 幼体

ムナボシヒメグモ *Platnickina sterninotata* 幼体

マダラヒメグモ *Steatoda triangulosa* 幼体

ジョロウグモ科	
ジョロウグモ <i>Nephila clavata</i>	幼体
アシナガグモ科	
ヤマジドヨウグモ <i>Meta reticuloides</i>	♂成体
アシナガグモ <i>Tetragnatha praedonia</i>	幼体
<i>Tetragnatha</i> sp.	幼体
コガネグモ科	
<i>Cyclosa</i> sp.	幼体
トガリオニグモ <i>Eriovixia pseudocentrodes</i>	幼体
ワキグロサツマノミダマシ <i>Neoscona melloteei</i>	♀成体
コゲチャオニグモ <i>Neoscona punctigera</i>	♂成体
コマチグモ科	
gen sp.	幼体
エビグモ科	
アサヒエビグモ <i>Philodromus subaureolus</i>	幼体
シャコグモ <i>Tibellus japonicus</i>	幼体
カニグモ科	
コハナグモ <i>Diaea subdola</i>	幼体
クマダハナグモ <i>Ebelingia kumadai</i>	幼体
ハナグモ <i>Ebrechtella tricuspidata</i>	幼体
ワカバグモ <i>Oxytate striatipes</i>	幼体
セマルトラフカニグモ <i>Tmarus rimosus</i>	♀成体
<i>Xysticus</i> sp	幼体
ウエムラグモ科	
イタチグモ <i>Itatsina praticola</i>	幼体
ネコグモ科	
オトヒメグモ <i>Orthobula crucifera</i>	♂成体
ネコグモ <i>Trachelas japonicus</i>	幼体
ハエトリグモ科	
ネコハエトリ <i>Carrhotus xanthogramma</i>	幼体
アダンソンハエトリ <i>Hasarius adansoni</i>	♀成体, 幼体
デーニッツハエトリ <i>Plexippoides doenitzi</i>	♀成体
<i>Myrmarachne</i> sp.	幼体
ヤガタアリグモ <i>Myrmarachne elongata</i>	幼体
gen. sp.	幼体

(計 45 種)

文献

小野展嗣 (編) 2009. 日本産クモ類. 東海大学出版会.

谷川明男 2012. 日本産クモ類目録 Ver. 2012R1. <<http://www.asahi-net.or.jp/~dp7a-tknw/japan.pdf>>

(文責: 吉田 真)

関西クモ研究会 採集会の記録 (2013 年度)

場所：大阪府茨木市西安威一丁目・二丁目～東福井二丁目・三丁目～福井

◆ 2013 年 5 月 26 日

参加者：上村友久，加村隆英，熊田憲一，黒田あき，新垣雅美，関根幹夫，竹内正幸，西本 裕，船曳和代，村上協三。(10名)

◆ 2013 年 9 月 22 日

参加者：浅川 正，伊規須貞子，一木琢郎，一木十郎，伊藤 博，伊藤孝子，上村友久，香川佳隆，香川貴美子，香川慶碩，香川恭碩，加村隆英，北村格一，黒田あき，新垣雅美，新垣あずみ，関根幹夫，竹内正幸，田中穂積，西川喜朗，西本 裕，船曳和代，村上協三，山田廣士。(24名)



2013 年 9 月 22 日の採集会の参加者

上記 2 回の採集会で得られたクモ類を報告する。(同じ場所において、西川喜朗氏が 9 月 26 日に採集したものについても同定結果をお知らせいただいたので、あわせて示す。) 括弧内に同定結果の報告者と採集月日を示す。* は 9 月 22 日に、現地において解散前に行ったまとめの結果であることを意味する。科の配列は小野 (2009) に準じる。学名は省略した。

ジグモ科

ジグモ (関根 5/26)

トタテグモ科

キシノウエトタテグモ 1♀ (関根 5/26); (* 9/22)

エンマグモ科

ミヤグモ 1♀ (関根 5/26)

タマゴグモ科

ナルトミダニグモ 1♂ (西川 9/22)

シャラクダニグモ 1♀ (加村 5/26)

ヤマシログモ科

ユカタヤマシログモ 1幼体 (加村 5/26)

ガケジグモ科

クロガケジグモ (* 9/22)

ハグモ科

ネコハグモ (* 9/22)

ヒナハグモ 1♀1♂ (加村 5/26)

ウズグモ科

マネキグモ ♂ (村上 5/26)

ヒラタグモ科

ヒラタグモ (* 9/22)

タナグモ科

コクサグモ 1♀ (西川 9/22)

キシダグモ科

イオウイロハシリグモ(?) (西本採集, 加村同定 5/26)

コモリグモ科

クラークコモリグモ 2♀1♂ (加村 5/26); (* 9/22)

ササグモ科

ササグモ ♂ (村上 5/26); 1♀ (関根 5/26); 4幼体 (西川 9/26)

サラグモ科

ハラジロムナキグモ ♀ (村上 5/26)

ナミズキンヌカグモ 2♀1♂ (加村 5/26)

オオイオリヒメサラグモ 1♀ (加村 5/26)

ヒメグモ科

セアカゴケグモ (* 9/22)

スネグロオチバヒメグモ 1♀ (加村 5/26)

コケヒメグモ ♀ (村上 5/26)

オオヒメグモ 1♀ (西本採集, 加村同定 5/26); (* 9/22)

ニホンヒメグモ (* 9/22)

シロカネイソウロウグモ (* 9/22)

ヤマトミジングモ ♀ (村上 5/26)

ヨリメグモ科

ヨロイヒメグモ 1♀1♂ (加村 5/26)

ジョロウグモ科

ジョロウグモ (* 9/22); 1♀1♂ (西川 9/26)

アシナガグモ科

コシロカネグモ 1♀ (西川 9/22)

チュウガタシロカネグモ ♀ (村上 5/26); 1♀ (西本採集, 加村同定 5/26); (* 9/22)

ウロコアシナガグモ (* 9/22)

ヤサガタアシナガグモ 1♀ (加村 9/22)

コガネグモ科

キジロオヒキグモ 1♂ (村上 5/26)

ナガコガネグモ 1♀幼体 (加村 9/22)

コガタコガネグモ (* 9/22)

マルゴミグモ (1♀ 西本採集, 加村同定); 1♀ (加村 5/26); (* 9/22)

ヨツデゴミグモ (* 9/22)

ドヨウオニグモ 1♀幼体 (加村 5/26)

ワキグロサツマノミダマシ (* 9/22); 1♀ (西川 9/26)

ヤマシロオニグモ 1♀ (関根 5/26)

アオオニグモ 1♀ (関根 5/26)

シボグモ科

シボグモ 1幼体 (西川 9/22)

ワシグモ科

シノノメトンビグモ 1幼体 (加村 5/26)

マエトビケムリグモ ♀ (村上 5/26)

カニグモ科

ワカバグモ 1♂ (加村 5/26)

キハダカニグモ 1♂ (関根 5/26)

アズマカニグモ ♀ (村上 5/26)

ハナグモ 1♂ (加村 5/26); 1幼体 (西川 9/26)

ウエムラグモ科

イタチグモ 2幼体 (西川 9/22)

ネコグモ科

ネコグモ ♀ (村上 5/26)

ハエトリグモ科

ヤガタアリグモ (* 9/22)

アオオビハエトリ 1幼体 (西川 9/26)

デーニッツハエトリ ♂ (村上 5/26); 1♀ (西川 9/26)

ヨダンハエトリ 1♀ (加村 5/26)
カラスハエトリ ♀ (村上 5/26); 1♀ (加村
5/26)

ヒメカラスハエトリ ♀ (村上 5/26)
キレワハエトリ ♂ (村上 5/26)

(56種)

セアカゴケグモは、茨木市西安威の追手門学院大学の正門付近で発見されたもので、ここでは以前から本種の生息が確認されている。

ナミズキンヌカグモ、オオイオリヒメサラグモ、ヒメカラスハエトリの3種は、新海ら (2012) によると従来、大阪府内での採集記録がなかったものである。

文献

小野展嗣 (編) 2009. 日本産クモ類. 東海大学出版会.

新海明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生 2012. CD 日本のクモ Ver. 2012. 著者自刊.

(文責：加村 隆英)

池田勇介さんを偲ぶ (その2)

池田勇介くんの死を悼む

吉田 真

池田勇介君が急逝してから、一年以上が過ぎた。一昨年9月に発行された「くものいと」46号には「池田勇介君を偲ぶ」というコーナーが設けられ、関西在住の多くの方が追悼文を寄せられた。しかし、あまりにも悲しくて、僕は書くことができなかった。あの若さで死んだということを受け入れることができず、自宅の浴槽で突然死したという状況を受け入れることもできず、僕は、彼を追悼することができなかったのである。

加村さんから改めて、47号に追悼文を書くかどうかという打診を受けた。一年が過ぎても、悲しみは少しも安らぐことはない。しかし、いま書かないとずっと書けないと思い、書くことにした。

僕がはじめて勇介君を見たのは、彼が5歳の秋、1999年の姫路の採集会だった。新海栄一・高野伸二のフィールド図鑑「クモ」はすでに熟読していたようで、採集会で見たクモは殆どすぐに「何々グモ」と判定していた。新海栄一さんの子ども時代もこ

うであったのではないかと思わせる早熟な子どもに見えた。世の中にはいろんなオタクがいる。昆虫図鑑を丸覚えしている子どもも少なくないから、クモ図鑑を熟読している子どもがいても不思議はない。しかし、このような子どもたちの多くは、大きくなったら只の人である。勇介君はそうではなかった。これは彼の序章に過ぎなかったのである。

小学生低学年の頃だったろうか？「勇介君、これ何？」と聞くと、「これはちょっと・・・調べてみないと分かりません」という答が返ってきた。この段階で既に、彼は「研究者っぽく」なっていたのである。同定能力はここでもはや僕を超えた。なぜか悔しくはなく、とてもうれしかったことを覚えている。とんでもない奴が現れたと思った。このまま順調に成長すれば、彼は時代を代表するクモ学者になるかもしれない。過度の期待はもちろん禁物である。子どもの興味・関心は変わることが多いから、彼は将来、クモなどとは関係のない針路を進むかもしれない。それはそれで仕方がないことで、彼の進路を決めるのは彼自身であると思っていた。

小学校高学年から中学にかけて、彼はますますすごい奴になっていった。原著論文を読むために英語の塾に通っているとか、おばあちゃんからもらったお年玉が中国クモ図鑑であるとか、どう見ても同世代の子どもとは違う。期待してはいけないと思いつつ、この段階で僕は彼の将来に大きな期待をするようになっていった。研究室にあった双眼顕微鏡を貸してあげたのもこの頃である。彼は自宅で、毎日何時間もこの顕微鏡でクモを見ていたらしい。

さて、彼の知識と能力、とりわけ同定能力を伸ばすために、僕がさらにやってあげられることはなんだろう。ここで僕は、研究発表や文献紹介が中心であった関西クモゼミに「同定会」を組み込んだ。研究発表などは午後1時から3時ころまでとし、午前中と午後3時以降を、各自が同定できないでいるクモを調べる同定会としたのである。僕はもはや彼の同定を指導できないので、彼の相手は加村さん、熊田さん、谷川さん、小池君などにやっていただいた。同定会は延々と夜の8時か9時頃まで続くのが常であった。勇介君と小池君の同定能力はこの同定会で鍛えられたのである。

そして勇介君に転機が訪れた。第一志望の高校に入学できず、入学した高校に合わずに不登校になったと言う話を聞いた。この頃から彼は、クモゼミにも関西クモ研究会の行事にも参加しなくなったのである。彼の興味はクモから離れ、クラシック音楽や文学に移っていったらしい。「彼の進路を決めるのは彼自身である」ということは頭では分かっているのだが、息子に裏切られた親父みたいな想いに僕はさいなまれた。理不尽な想いであることは分かっていたが、僕はとても寂しかった。

昨年の4月29日。彼のお父さんから「勇介が死にました」という電話を受けた。ま

るで実感はなく、死因はどうかとか、お通夜や告別式はどうされるのかとか、かなり事務的なやり取りをしたことを覚えている。悲しいという感情がまだわいてこなかったのであろう。

お通夜と告別式のときに、いろいろな人からお話を聞いた。僕は彼がとても繊細な少年であると思っていたが、必ずしもそうではないことも知った。太宰治を愛読していたというのはさもありなんと思ったが、インターネットで購入したクモの専門書をもっと高く他人に売りつけたとか、したたかな面もあったという。不登校だったと言うから友達も少ないのかと思っていたら、お通夜には友達がたくさん来ていた。その子たちと少ししゃべったが、感性豊かでとても感じがいい連中だった。彼はいろいろな人たちとつながっていて、幸せだったのだと思った。

ご両親に、「勇介君を偲ぶ会をやりましょう」と言ったが、すぐにはやる気が起こらない。夏休みが過ぎてから考えはじめたが、どんな風にやったらいいのか分からない。喫茶店やレストランの一室を借りてやろうかとも考えたが、最初から湿っぽくなりそうで、彼を偲ぶ会としてはそぐわない気がする。結局のところ、「いつものように」クモゼミをやり、その中で偲ぶ会をやることにした。午前中から同定会をやり、昼食は「いつものように」勇介君のご両親に作っていただき、研究発表をやった後で、参加者が一人ひとり勇介君との思い出を話した。とても素敵な会だった。

勇介君から僕への「遺言」なるものを彼のお父さんから聞いた。「京都市動物園の側壁にヒトエグモがたくさんいるから見に行け」とのことである。さすが勇介君、希少種のヒトエグモの多産地を発見していたのである。僕の家から動物園まで、車なら15分で行ける距離であるが、僕はまだ行っていない。それをやったら彼との最後の絆が切れてしまうようで、僕はいまだに、そこに行くのをためらっている。

池田勇介くんを偲んで

西川喜朗

5歳のクモ博士

池田勇介君と初めて出会ったのは、西区の鞆公園（うつぼこうえん）で、大阪の博物館の「セミのぬけがら調べ」¹⁾の行事のときだった。1999年9月5日、この行事が始まりかけた時に、世話係のひとりが「西川さん！5歳のクモ大好きな子が来てるで！」と教えてくれた。お母さんと弟さんが一緒だった。

「これはうれしいことだ！けど、5歳の子がそんなにくわしく知っているはずはない、クモがちょっと好きなだけだろう」と、気楽に思っていた。ところが、ビンに入

れたクモをチラッと見ただけですらすらと名前を言っている。私には、ルーペを使わないと名前が出てこないような種類でも、その子は迷うことなく即答している。サラグモやハエトリグモの名前も正確そうであった。眼も相当いいようだ。ちょうど2週間後の9月19日の日曜日には、姫路市の自然科学館の裏山で、関西クモ研究会の採集会があるので、参加を呼びかけた。

この姫路市での採集会には、父・幸二さんと参加された。プラスチックのマヨネーズ入れの底を切り取ったものを使って、たくさんのクモを上手に採っている。ここはクモの種類も多い。つぎつぎとクモの名前が出てくる。しかも正確そうである。私は、「これは、ただ者ではない」、「この子は毎日、毎晩、クモ図鑑を見てて、普通のクモの模様は全部頭の中に入ってるんや」と、確信した。

恐るべき集中力

池田勇介くんは、2002年(当時8歳)から、関西クモ研究会の「くものいと」や大阪市立自然史博物館友の会の「Nature Study」²⁾に、各地の調査報告や観察記録の報文を残されている。そのなかでも、貴重なものに次の論文がある。

2006年に、その2年前に、毒グモのセアカゴケグモに咬まれた時の記録した原稿を見せてもらった。非常に貴重な記録であるので、「くものいと」にぜひ投稿しようと即、賛同した。そして少し書き方に注文をつけたところ、素直に改正してくれて大変わかりやすくなった。この報文³⁾は、多くの研究者に参考にされている。

勇介くんはまた、中学生の時から、日本各地で開催される蜘蛛学会大会に参加していた。その都度、お目当ての研究者の指導を受けたり、クモの分類の論議をやっていた。だから、何人かの研究者は、自分の跡継ぎができた、やがて日本のクモ学を背負って立つ人物だと期待していただろうと思う。

後で知ったことであるが、勇介くんは文献の収集と整理、クモの部分図のスケッチ、はたまたクラシック音楽まで、好きでやっているだけのようだが、恐ろしいまでの集中力でクモ学に没頭していたことがうかがえた。私はそのパワーに追い付きたい。どうしたらあんな凝り性な子が育つのだろうか。

お母さんの優しいまなざし、お父さんのライバル意識を昂揚させる、つかず離れずの気くばり、弟や和歌山のおばあさんの研究熱心さ・・・すばらしい家族に乾杯!

勇介くんのご冥福を心からお祈りします。会えなくなったのが残念でならない。

~~~~~

- 1): 「セミのぬけがら調べ」: 大阪市立自然史博物館友の会主催の年中行事のひとつで、1992年以来、毎年9月の最初の日曜日に鞠公園内のセミのぬけがらを集めて集計している。
- 2): クモではないが興味あるものに、祖母から引き継いだクマゼミの調査がある。大きなミカンのプランターで、1996年9月の卵から5年目の2001年7月に1頭が羽化した(地中生活は4年間)。池田勇介・幸二 2002. プランターのミカンで育ったクマゼミ. Nature Study, 48(5): 6.
- 3): 池田勇介 2006. セアカゴケグモに咬まれて. くものいと, 39: 47-49.

## 関西クモ研究会 2012 年度例会の記録

2012 年 12 月 23 日 (日) に 四天王寺高等学校 (大阪市天王寺区) で 2012 年度の例会が開催された。

### 役員会

例会に先立って、役員会が開かれた。出席者：山野忠清 (庶務), 吉田 真 (会計), 加村隆英 (編集), 西川喜朗・船曳和代 (顧問)。

以下の事項が審議, 報告された。

#### (1) 「くものいと」の編集状況

2012 年 9 月に第 46 号を発行した。第 47 号の発行は 2013 年 9 月をめどに発行できるよう努めたい。

#### (2) 2013 年度の行事予定

・採集会：2013 年 5 月 26 日 (日) および 2013 年 9 月 22 日 (日), いずれも場所は, 茨木市安威周辺。

・例会：2013 年 12 月 22 日 (日)<sup>(注)</sup>, 場所は追手門学院大阪梅田サテライト。

(注) 後日, 追手門学院大阪梅田サテライトが日曜日は閉室であることが判明したため, 役員間で協議の結果, 日程を 1 日繰り上げて, 2013 年 12 月 21 日 (土) に開催することになった。

### 例会

出席者：荒川 真, 池田和穂, 池田幸二, 伊藤 博, 上田祐補, 加村隆英, 黒田あき, 清水裕行, 竹内正幸, 谷川明男, 西川喜朗, 西本 裕, 船曳和代, 村上協三, 山田廣士, 山野忠清, 吉田 真 (計 17 名)。

### 講演発表

(1) 谷川明男：韓国のイソコモリ探蛛行

(2) 西川喜朗：ジョロウグモの網の消滅とセアカゴケグモの分散について

(3) 清水裕行：2012 年日本列島のゴケグモ

なお, 講演の合間に, 役員会で審議, 報告した内容を出席者に紹介し, 了承を得た。また, 出席者全員が近況を報告した。

## 関西クモ研究会 2013 年度例会の記録

2013 年 12 月 21 日 (土) に 追手門学院大阪梅田サテライトで 2013 年度の例会が開催された。

### 役員会

例会に先立って、役員会が開かれた。出席者：田中穂積 (会長), 吉田 真 (会計), 加村隆英 (編集), 西川喜朗・船曳和代 (顧問), 関根幹夫 (会計監査)。

以下の事項が審議, 報告された。

#### (1) 「くものいと」の編集状況

2012 年 9 月に第 46 号を発行した。編集幹事の都合で第 47 号の発行が遅れている。2014 年 3 月までには発行できるように努める。

#### (2) 2014 年度の行事予定

・採集会：2014 年 5 月 25 日 (日) および 2014 年 9 月 21 日 (日), いずれも場所は, 妙見山方面。

・例会の日程と場所については, 庶務幹事が欠席のため, 後日, 役員間で相談することになった<sup>(注)</sup>。

(注) その後, 役員間で検討した結果, 2014 年 12 月 21 日 (日) に大阪市立自然史博物館で開催することが決まった。

### 例会

出席者：浅川 正, 荒川 真, 上田祐補, 上ノ山和津子, 上ノ山祐子, 加村隆英, 黒田あき, 関根幹夫, 田中穂積, 谷川明男, 西川喜朗, 西本 裕, 船曳和代, 山田廣士, 吉田 真 (計 15 名)。

### 講演発表

- (1) 西本 裕<sup>o</sup>, 遠藤知二：兵庫県におけるクモバチ科ヒゲクモバチ (*Dipogon*) 属の分布と生態 –第 2 報–
- (2) 関根幹夫：大分のクモ相撲 –2013 年 7 月 28 日–
- (3) ウィモルワン・チョウオン, 谷川明男<sup>o</sup>, 池田勇介：トラマルはジャノメだった
- (4) 谷川明男：タイ南部蜘蛛見遊山の旅
- (5) 加村隆英：青いジョロウグモ？

なお, 講演の合間に, 役員会で審議, 報告した内容を出席者に紹介し, 了承を得た。また, 出席者全員が近況を報告した。

## 関西クモ研究会 2012 年度会計報告

|     |                    |         |
|-----|--------------------|---------|
| 収入： | 2011 年度からの繰越金      | 197,748 |
|     | 会費 2012 年度前受け分繰り入れ | 45,000  |
|     | 会費 2012 年度分入金      | 15,000  |
|     | 会費過年度分入金           | 13,000  |
|     | バックナンバー売り上げ        | 11,240  |
|     | 寄付                 | 12,760  |
|     | 受取利子               | 81      |

---

---

|    |  |         |
|----|--|---------|
| 合計 |  | 294,829 |
|----|--|---------|

|     |               |       |         |
|-----|---------------|-------|---------|
| 支出： | くものいと No. 46  | 表紙用紙  | 997     |
|     | くものいと No. 46  | 発送用封筒 | 930     |
|     | 同上            | 郵送費   | 6,640   |
|     | 採集会・例会等の案内    | 郵送費   | 12,750  |
|     | 2012 年度例会お茶代  |       | 1,000   |
|     | 事務費           |       | 3,820   |
|     | 2013 年度への繰り越し |       | 268,692 |

---

---

|    |  |         |
|----|--|---------|
| 合計 |  | 294,829 |
|----|--|---------|

### 会費前受け状況

2012 年度末における会費前受け分の合計は、88,000 円である。

その内訳は次のとおり。2013 年度分 47,000 円；2014 年度分 18,000 円；2015 年度分 12,000 円；2016 年度分 5,000 円；2017 年度分 4,000 円；2018 年度分 1,000 円；2019 年度分 1,000 円。

上記のとおり、報告します。

会計幹事 吉田 真

\*\*\*\*\*

### 会計監査報告

関西クモ研究会 2012 年度会計について、関係証票書類に基づき監査を行った結果、適正に処理されていることを確認いたしました。

2013 年 5 月 2 日 会計監査 関根 幹夫

## 編集後記

くものいと 第 47 号をお届けいたします。たいへん長らくお待たせいたしました。第 46 号の発行は 2012 年 9 月でしたから、1 年半も間が空いてしまったこととなります。編集担当の私に時間がなく、ずるずると時が経ってしまいました。早い段階で原稿をいただいていた方々には申し訳なく、お詫び申し上げます。

これに懲りずに、皆さん、今後も原稿をお寄せください。

加村 隆英

## くものいと 第 47 号 2014 年 3 月 22 日 発行 関西クモ研究会

事務局：567-8502 大阪府茨木市西安威 2-1-15

追手門学院大学 生物学研究室

会 長：田中 穂積

庶務幹事：山野 忠清

会計幹事：吉田 真

編集幹事：加村 隆英

顧 問：西川 喜朗・船曳 和代

会計監査：関根 幹夫